

令和5・6・7年度大野城市教育委員会研究指定・委嘱
大野城市立大野小学校

研究発表会要録

研究主題

道徳的価値を自分事として捉える
子どもを育てる道徳科学習指導
～「弱さ」に焦点を当てた三つの活動を通して～



令和7年10月1日(水)
大野城市立大野小学校

はじめに

本校は、明治 23 年 5 月 25 日の開校以来 135 年目を迎えた道徳(科)の研究校です。35 年前の記録には研究主題「個が生きる感動体験の教育—理科・音楽・道徳—」、副主題「子ども一人一人を学習活動に生き生きと参加させたり、個性を伸長させたりする」と記されており、道徳(科)を中心として個を大切にした教育が現在も受け継がれています。

学習指導要領解説「特別の教科道徳編」4 指導計画の作成と内容の取扱い には、道徳科の指導においては、児童が道徳的価値を「自分事」として捉えられるよう努めることと示されています。また「自分事として捉える」とは、人の心にある葛藤とそれを乗り越え実現することでどのような意味を見出すのかについて考えることであると示されています。

そこで私たちは、児童が「道徳的価値を自分事として捉える」姿をめざし、人の心にある葛藤を生み出す「弱さ」に視点を当て、授業デザインを構想しました。道徳科の研究校ではなくても誰にでもすぐに実践可能な授業をつくり、本地区の道徳教育の充実につなげたいという思いで取り組んできました。

これまで 3 年間にわたり、研究主任と研究推進委員を中心に研究を積み上げて参りましたが、この間、実践と修正を幾度となく繰り返すことができたのは、本校の強みである職員集団の高い同僚性・協働性と、職員個々が個性豊かで研修意欲が高く、新しいことに進んで取り組む風土が十分に発揮されたからに他なりません。

本日の発表会では、この研究の一端をご覧いただき、皆様から忌憚のないご意見を賜りたいと思っております。また、それぞれの現場へ持ち帰り・生かしていただけるものが少しでもございましたら幸いです。

結びに、これまで本校の研究を支えてくださった、十文字学園女子大学教授 浅見哲也 先生をはじめ、福岡教育事務所指導主事 宇戸勝則 先生、那珂川市立安德小学校長 陶山嘉一先生、筑紫野市立山口小学校教頭 富松浩規 先生、大野城市教育委員会の皆様、他ご指導いただいた多数の皆様に心から感謝を申し上げます。

令和 7 年 10 月 1 日

大野城市立大野小学校

校長 梶 幸男

日 程

13:15	13:35	14:20	14:35	14:55	15:30	15:45	16:35	16:45
受付	公開授業	移動 休憩	開会行事 主題説明	分科会	移動 休憩	講演	閉会行事	

(1) 公開授業 (13:35～14:20)

授業学級	授業者	主題名	教材名
1年4組	平松 海里	みんなとなかよく	二わのことり
1年5組	泉 京子	あんぜんなせいかつ	休みじかん
2年1組	蛸原登美子	あたたかい心	くりのみ
2年2組	高山 福	みんなでつかうためには	一りん車
3年4組	飯田 莉羅	よく考えて	どんどん橋のできごと
3年5組	友田 梨央	自分に正直に	まどガラスと魚
4年3組	櫻井 力靖	友だちのことを考えて	絵はがきと切手
4年4組	山形 克二	正直はだれのため	新次のしょうぎ
4年5組	川浪 信子	勇気をもって	遠足の朝
5年3組	豊世菜々子	広い心	折れたタワー
5年5組	前田 晏佳	親切な思い	くずれ落ちただんボール箱
6年1組	石田 稔裕	相手を理解する心	ぼくだって
6年4組	吉原もな美	集団での役割	二十五人でつないだ金メダル

(2) 開会行事・主題説明(14:35～14:55)

	会場	進行
低学年部	3年1組教室	◆あいさつ 教 頭 磯田 哲郎 ◆主題説明 教 諭 小林 一太
中学年部	5年1組教室	◆あいさつ 教 頭 岡本 貢昭 ◆主題説明 教 諭 友田 梨央
高学年部	体育館	◆あいさつ 校 長 梶 幸男 ◆来賓紹介 主幹教諭 前田 真秀 ◆主題説明 教 諭 石田 稔裕

(3) 分科会(14:55～15:30)

	会場	指導助言者
低学年部	3年1組教室	福岡教育事務所 指導主事 宇戸 勝則 先生
中学年部	5年1組教室	筑紫野市立山口小学校 教 頭 富松 浩規 先生
高学年部	体育館	那珂川市立安德小学校 校 長 陶山 嘉一 先生

(4) 講演(15:45～16:35)

演題「これからの道德教育を考える」

十文字学園女子大学 教育人文学部児童教育学科

教授 浅見 哲也 様

会場：体育館

(5) 閉会行事(16:35～16:45)

◆あいさつ 大野城市教育委員会 教育長

目 次

1.	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2.	日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3.	公開授業（学習指導案）・・・・・・・・・・	5
4.	開閉会行事・・・・・・・・・・・・・・・・	3 2
5.	主題説明（研究構想）・・・・・・・・・・	3 3
6.	分科会・・・・・・・・・・・・・・・・	4 0

【低学年 分科会】

【中学年 分科会】

【高学年 分科会】

7.	講演・・・・・・・・・・・・・・・・	4 5
8.	研究同人・講師一覧・・・・・・・・	4 8
9.	おわりに・・・・・・・・	5 0

公開授業 (学習指導案)

第1学年4組 道徳科学習指導案

指導者 大野城市立大野小学校 平松 海里

1 主題名 みんなとなかよく 「二わのことり」(日本文教出版)

2 内容項目とその系統性

B 友情, 信頼

第1学年及び第2学年	友達と仲よくし, 助け合うこと。
第3学年及び第4学年	友達と互いに理解し, 信頼し, 助け合うこと。
第5学年及び第6学年	友達と互いに信頼し, 学び合って友情を深め, 異性についても理解しながら, 人間関係を築いていくこと。
中学校	〔友情, 信頼〕 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち, 互いに励まし合い, 高め合うとともに, 異性についての理解を深め, 悩みも葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。
低学年の段階においては, 幼児期の自己中心性から十分に脱しておらず, 友達の立場を理解したり自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しいことも少なくない。しかし, 学級での生活を共にしながら一緒に勉強したり, 仲よく遊んだり, 困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ねることで, 友達のよさをより強く感じるようになる。指導に当たっては, 特に身近にいる友達と一緒に, 仲よく活動することのよさや楽しさ, 助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。また, 友達とけんかをして, 友達の気持ちを考え, 仲直りできるようにする。そのためには, 友達と一緒に活動して楽しかったことや友達と助け合ってよかったことを考えさせながら, 友達と仲よくする大切さを育ていくようにする必要がある。(学習指導要領解説より)	

3 教材分析・児童の実態

教材について	児童について
本教材は, やまがらの誕生日のお祝いに行くか, うぐいすの家である音楽会の練習に行くか迷ったみそさざいが, 他の小鳥たちと一緒にうぐいすの家に行き音楽会の練習に参加した。しかし, 全然楽しく感じず, うぐいすの家を抜け出し, やまがらの家へ行くという相手の気持ちを考えることの大切さが描かれている。	本学級の児童は, 友達と仲よくすることは大切, 仲よくしたいと考えている。しかし, 自分の都合だけを考えて行動して, 友達を悲しい気持ちにさせてしまうこともある。これは, 自分の気持ちや都合を優先し, 相手の気持ちを十分に考えることができていないからだと考える。そこで, 友達の気持ちを考えることの大切さを感じられるようにしたい。

4 本教材をもとに考える「弱さ」と「弱さを生む状況」

弱さ…友達を大切にしたいと思うが, 自分の楽しみや周りの人たちの決定に任せようとする気持ち 弱さを生む状況…みんなと同じ行動をするか, 一人だけ別の行動をするかを選択しなければならない状況, 自分にとって都合がいい(より楽しいことがある)状況

5 弱さに焦点を当てた三つの活動について

	「表す」活動	「考える」活動	「向き合う」活動
目的	○友達を大切にしたいと思っても, 周りの状況や自分の都合によって友達の気持ちを大切にできないことがあることに気付く。	○やまがらの家に飛び立ったときのみそさざいの気持ちを考えることで, 友達の気持ちを考えることの大切さに気付く。	○アンケート結果を想起し, 日常生活でみんなが笑顔で過ごすための大切な心を日々の生活と結び付ける。
弱さを扱う活動	・うぐいすの家に行くか, やまがらの家に行くかで迷っているみそさざいの気持ちを表情図に表出して視覚化する。	・深める発問「みんなはうぐいすさんの家なのに, どうしてやまがらさんの家に行くの。」を行い, やまがらの家に行った理由を共有化する。	・事前アンケート結果をもとに, これからどのように生活すればみんなが笑顔で過ごすことができるか考えることで, 本時の学びを自覚化する。

6 本時のねらい

みそさざいの気持ちの変容について考えさせることを通して、友達の気持ちを考えることが大切であることに気づき、友達と仲よくしようとする心情を育てる。

7 本時の指導

過程	学習活動、発問 及び 児童の反応	指導上の留意点
導入 ⑤	1 アンケートで日常生活を振り返り、みんなが笑顔で過ごすために大切な心を考えるという本時の問題意識をもつ。 ○みんなは、笑顔で過ごしていますか。 ・笑顔で過ごしていることが多い。 ・悲しい気持ちになって笑顔になれない時もある。 ・みんなが笑顔で過ごせるようにしたい。 「見つめる心」 みんなが えがおで すごすために たいせつな ところを みつけよう。	○ 問題意識をもたせるために、日常生活を振り返ったアンケートを参考に、友達と笑顔で過ごしたいと思いながらも実際はできていない現状を確認する。
展開 ⑩	2 教材をもとに話し合い、道徳的価値に対する納得解を導き出す。 (1) うぐいすの家に行くかやまがらの家に行くか迷っているみそさざいの気持ちを共感的に話し合う。【表す】 ○ うぐいすかやまがらのどちらの家に行くか迷っている時のみそさざいはどんな気持ちでしょう。 【うぐいすの家へ行く】 ・音楽会の練習がしたいな。 ・みんなが行くなら自分もこっちがいいな。 ↑ ↓ 迷い 【やまがらの家へ行く】 ・やまがらさんの誕生日をお祝いしたいな。 ・招待状をもらったから行こうかな。 (2) みそさざいの気持ちの変容を話し合う。【考える】 ◎ やまがらの家に飛び立った時のみそさざいはどんな気持ちでしょう。 ・やまがらさんのことが気になって音楽会の練習が楽しくない。 ・やまがらさん今頃どうしているかな。 ・早くやまがらさんの家に行ってお祝いしたい。 ・やまがらさんを悲しい気持ちにさせてごめんね。 (3) やまがらの涙を見たみそさざいの気持ちを話し合う。 ○ やまがらの涙を見た時のみそさざいはどんな気持ちでしょう。 ・やまがらさんが喜んでくれた。やっぱり来てよかった。 ・もっとはやくに来たらよかった。 ・これからも友達を大切にしよう。 ともだちの きもちを かんがえる ところ。	※弱さを視覚化する工夫 ○ 自分の都合を優先してしまう弱さに気付かせるために、「うぐいすさんの家に行きたい気持ち」と「やまがらさんの誕生日をお祝いしたい気持ち」の双方を板書にまとめる。 ○ みそさざいの葛藤している気持ちをおさえるために、モヤモヤの表情図を提示する。 ※各自の考えを共有化する工夫 ○ やまがらを思う気持ちを高めるために、やまがらの招待状を一人一人が手に取ってみる動作化をさせ、みそさざいの気持ちを尋ねる。 ○ みそさざいが弱さを乗り越えたことを捉えさせるために、深める発問の「みんなはうぐいすさんの家にいるのに、どうしてやまがらさんの家に行くの。」を行う。 ○ やまがらが嬉しくて泣いていることをおさえるために、にこにこの表情図を提示する。 ○ やまがらとみそさざいの両方が笑顔になったことをおさえるために、にこにこの表情図を提示する。
終末 ⑩	3 道徳的価値をもとにこれまでの自分を見つめ、これからの生き方について考えを深める。【向き合う】 (提示した場面で) ○ このような場面で、これからどのように行動をしたいですか。 ・友達の気持ちを考えて行動して、仲よくしていきたい。	※学びを自覚化する工夫 ○ 日常生活をつなぎ、これからの自分を考えさせるために、日常生活で友達と笑顔で過ごしている場面の写真を提示する。

第1学年5組 道徳科学習指導案

指導者 大野城市立大野小学校 泉 京子

1 主題名 あんぜんな せいかつ 「休みじかん」(日本文教出版)

2 内容項目とその系統性

A 節度、節制

第1学年及び第2学年	健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。
第3学年及び第4学年	自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする。
第5学年及び第6学年	安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がける。
中学校	〔節度、節制〕 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心がけ、安全で調和のある生活をする。

低学年の段階においては、児童の日常生活における行動を通して、周囲に対する気配りや思いやりをもち互いの健康に心掛け、安全の決まりを守ってそれを実践することなどの具体的な指導を進める必要がある。指導に当たっては、時刻を守り時間を大切にすることや、生活に一定のリズムを与え、わがままをしない規則正しい生活が自分にとって大切なことであり、そのような生活が快適な毎日を送ることにつながることに気付かせ、基本的な生活習慣を確実に身に付けることができるように繰り返し指導する必要がある。(学習指導要領解説より)

3 教材分析・児童の実態

教材について	児童について
本教材は、2人の児童が休み時間に早く外に行きたいという思いで、けがをする可能性を考えずに廊下を走っていると、6年生のお兄さんにぶつかってしまって頭を打ちそうになる。6年生のお兄さんから「けがをすると遊べなくなるかもしれない。」という話を聞き、「これから急いでいても廊下は走らないようにしよう。」という主人公の気持ちの変容が描かれている。	本学級の児童は、周囲に対する気配りや思いやりをもち安全に心掛けながら日常生活を過ごすことができている。しかし、自分のやりたいことがあると自分の思いを優先してしまい自らを節制できない姿が見られる。これは、先のことを考えて安全に行動しようとする判断力が十分ではないからだと考える。そこで、先のことを考えて自らを節制することは、自分も周りの人も安全に過ごすことができることに気付けるようにしたい。

4 本教材をもとに考える「弱さ」と「弱さを生む状況」

弱さ…安全に関して、してはいけないと分かっているけど、したい気持ちを制限できない気持ち
弱さを生む状況…遊び道具を他の人に取られたくない、早く遊びたい状況

5 弱さに焦点を当てた三つの活動について

	「表す」活動	「考える」活動	「向き合う」活動
目的	○安全に過ごしたいという気持ちはあるものの、自分の気持ちを優先してしまうことに気付く。	○「走ってけがをすると遊べなくなる。」「自分も周りの人もけがをする。」という先のことを考える大切さに気付く。	○日常生活での危ない場所や場面でどんな心を大切にしていくなのか、自分自身の弱さと向き合う。
弱さを扱う活動	・主人公の、早く外に行きたい気持ちを表情図に表出して視覚化する。	・教師の動作化(とてもゆっくり歩く)を見て、竹馬を取るためにどのように廊下を通るかをペア交流し、安全に過ごすために大切な心について共有化する。	・導入で提示した日常生活での危ない場面を再度振り返り、どのように行動をすれば安全に過ごすことができるか考えさせることで、本時の学びを自覚化する。

6 本時のねらい

主人公の気持ちを考えることを通して、安全かどうか先のことを考えて行動することが大切であることに気づき、これから自分や周りの人が安全に過ごすことができるように、自らを節制しようとする実践意欲と態度を育てる。

7 本時の指導

過程	学習活動、発問 及び 児童の反応	指導上の留意点
導入 ⑤	1 これまで安全に過ごすために気をつけてきたことについて話し合い、本時の問題意識をもつ。 ○ 廊下や教室を走ったことはありますか。 ・安全に過ごすことは大切だと思い行動しているが、これからも廊下や教室、またそれ以外の場所で安全に過ごせるかは分からない。 ・安全な過ごし方は理解しているができていない。 見つめる心 あんぜんに過ごすために 大せつなところはなにか かんがえよう。	○ 問題意識を持たせるために、生活アンケートを活用して、安全な過ごし方ができていない現状や、今後出てくるであろう弱さを生む状況を提示する。
展開 ③⑩	2 教材の中の主人公に共感し、節制の価値について明らかにする。 (1) 教材文の、廊下を走ってしまった主人公の気持ちを考える。【表す】 ○ 廊下を走っている時、どんな気持ちですか。 ・早く遊びたい。 ・竹馬を取られたくない。 (2) 教材文の、お兄さんから安全についての話をされた時の主人公の気持ちを考える。【考える】 ◎ 6年生の話を聞いて、どんなことを考えましたか。 ・自分も周りの人も怪我をしなくてよかった。 ・これからは歩こう。 ・先のことを考えておけば、ぶつからなかったのに。 (3) 安全に過ごすために大切なことを考える。 ○ これからはどうやって廊下を通りますか。 ・(けがをしないように) 危なくないスピードで歩く。 ・落ち着いて行動する。 このあとどうなるかをかんがえて こうどうしようとするところが大せつ。	※弱さを視覚化する工夫 ○ 安全に過ごすために廊下は走ってはいけなと分かっているが、つい走ってしまう気持ちに共感させるために、場面の状況把握、ICTを用いた動作化や表情図の活用を行う。 ○ 先のことを考えた行動が大切であることに気付かせるために、走っていた時と6年生の話を聞いた時の主人公の表情の違いを提示する。 ※各自の考えを共有化する工夫 ○ 弱さを乗り越える工夫を考え価値を深く捉えさせるために、深める発問の「(とてもゆっくり歩いて) こんな風に歩いたらいい。」「竹馬を取るためにやっぱり走る。」を行う。
終末 ⑩	3 節度、節制の価値を実現することのよさや難しさを振り返り、これからの自分について考える。【向き合う】 (提示した危ない場面で) ○ こんな時、どんな気持ちになりますか。 ○ そんな気持ちになった時はどうしますか。 ・今日の学習で、安全に過ごすためにはこの後どうなるかを考えて行動することが大切であるということが分かった。もしも、自分のやりたいことを優先したくなったら、ちょうどいい行動を考えたい。	※学びを自覚化する工夫 ○ 今後出会うであろう弱さが表れやすい場面を意識しこれからの自分を考えさせるために、日常生活での危ない場所や場面の写真を提示する。

第2学年1組 道徳科学習指導案

指導者 大野城市立大野小学校 蛸原 登美子

1 主題名 あたたかい心 「くりのみ」(日本文教出版)

2 内容項目とその系統性

B 親切, 思いやり

第1学年及び第2学年	身近にいる人に温かい心で接し, 親切にすること。
第3学年及び第4学年	相手のことを思いやり, 進んで親切にすること。
第5学年及び第6学年	誰に対しても思いやりの心を持ち, 相手の立場に立って親切にすること。
中学校	「思いやり・感謝」 思いやりの心をもって人と接するとともに, 家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し, 進んでそれに応え, 人間愛の精神を深めること。
低学年の段階においては, 発達的特質から自分中心の考え方をすることが多いが, 様々な人々との関わりの中から相手の考えや気持ちに気付くことができるようになる。指導に当たっては, 幼い人や高齢者, 友達など身近にいる人に広く目を向けて, 温かい心で接し, 親切にすることの大切さについて考えを深められるようにすることが必要である。そして, 身近にいる様々な人々との触れ合いの中で, 相手のことを考え, 優しく接することができるようにすることが求められる。また, その結果として相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし, 具体的に親切な行為ができるようにすることが大切である。(学習指導要領解説より)	

3 教材分析・児童の実態

教材について	児童について
本教材は, 冬のある日にうさぎときつねが食べ物を探しに出かける話である。きつねはどんぐりをたくさん見つけ満腹になって食べ残した物を隠す。しかし, うさぎには食べ物が見つからなかったと言う。うさぎは食べ物がなくて困っているきつねを気の毒に思い, やっと見つけた二つのくりのみの一つをきつねに差し出す。そのうさぎの優しさに触れたきつねが涙を流すという内容である。きつねの心の変容を通して, 相手に対して思いやりをもった温かい心に触れ, 自分も誰かに親切にしたいと思う心を育てることができる教材であると考え。	本学級の児童は, 学校生活の中で, 困っていたり泣いたりしている友達に気付けば, 優しく声をかけ親切に接している姿が見られる。しかし, 困っている人に気付かないことが多く, より身近な友達に対しては, 相手の気持ちを考えずに自分の気持ちを押し通したり, 自分に不都合なことがあると自己中心的な行動をしたりする児童もいる。これは, 今までに困っている人に気付き親切にする経験をあまりしていないためだと考える。そこで, 相手に親切にすることは, お互いが温かい気持ちになることに気付くことができるようにしたい。

4 本教材をもとに考える「弱さ」と「弱さを生む状況」

弱さ…貴重な食べ物を他者に分けることなく, 独り占めしようとする自分本位な気持ち
弱さを生む状況…やっと見つけたものを友達に分けると, 自分の量が減って満足できない状況

5 弱さに焦点を当てた三つの活動について

	「表す」活動	「考え」活動	「向き合う」活動
目的	○見つけたどんぐりを腹いっぱい食べた後, 残りを隠した行動から, きつねが自分本位な気持ちでいることに気付く。	○親切にすることは, 自分も相手もあたたかい心になることに気付く。	○相手にやさしくすることで, お互いに温かい気持ちになることを実感する。
弱さを扱う活動	・きつねがどんぐりを独り占めしようとする気持ちを表情図に表出して視覚化する。	・差し出されたくりの実を見つめる動作化や, 涙を流したきつねの様子をペア交流することから, 涙を流したきつねの気持ちを共有化する。	・友達に親切にされたことを想起し, 自分や相手がどんな気持ちだったかを考えることで, 本時の学びを自覚化する。

6 本時のねらい

うさぎの親切に触れた主人公のきつねの心の変容を考えることを通して、他者のことを考えて親切にすることは、自分も相手も温かい心になることに気づき、互いに助け合っていこうとする心情を育てる。

7 本時の指導

過程	学習活動、発問 及び 児童の反応	指導上の留意点
導入 ⑤	1 涙が出る時について考えることで、本時の問題意識をもつ。 ○ なみだが出る時は、どんな時でしょう。 ・怒られて悲しかった。 ・けがをして痛かった。 見つめる心 どんな気持ちで、心がいっぱいになったかを考えよう。	○ 気持ちが高まった時に涙が出ることを想起できるように、アンケート結果を提示する。
展開 ③⑩	2 教材と自分の体験をもとに話し合い、親切の価値について明らかにする。 (1) きつねがうさぎのことを考えず自分のことだけ考えてどんぐりを独り占めしようとする自分本位の気持ちを考える。【表す】 ○ 残りのどんぐりを、落ち葉で隠したきつねさんは、どんな気持ちでしょう。 ・このどんぐりは自分だけの物。うさぎさんにあげたくない。 ・全部自分が食べたい。 (2) うさぎが渡したくりの実を見てきつねが涙を流した時の気持ちを考える。【考える】 ◎ くりの実を見ながら涙を流したきつねは、どんなことを思っているのでしょうか。 ・自分のことしか考えてなかった。うさぎさんごめんね。 ・自分のどんぐりもあげたいな。 ・二つしかない大事などんぐりをくれるなんて、うさぎさんは何てやさしいんだ。うれしい。 やさしくすると、自分もみんなもあたたかい（うれしい）心になる。	○ 自分本位の言動をしてしまうきつねの弱さに共感できるようにするために、どんぐりを独り占めしたいきつねの気持ちや状況が分かるキーワードを板書に整理する。 ※弱さを視覚化する工夫 ○ どんぐりを隠しているきつねの動作化によって、弱さを視覚化するために、表情図を用意する。 ※各自の考えを共有化する工夫 ○ うさぎの優しさがきつねの気持ちを変えたことを考えさせるために、深める発問「きつねさんは、たくさんどんぐりを持っているのに、なぜしなびたくり1個でうれしいのですか。」を行う。
終末 ⑩	3 親切、思いやりの価値を実現することのよさを振り返り、これからの自分について考える。【向き合う】 ① 友達にやさしくされてうれしかったのはどんな時ですか。 ② 友達にやさしくされて、自分はこれからどうしたいと思いましたか。 ・友達にやさしくしたら、とてもうれしい気持ちになることが分かりました。これからは私も友達にやさしくしたいです。 ・困っている友達がいたら親切にして、みんなが温かい気持ちになるようにしたいです。	※学びを自覚化する工夫 ○ 友達に親切にされて嬉しかった経験を発表させ、お互いに温かい気持ちになった児童を紹介する。

第2学年2組 道徳科学習指導案

指導者 大野城市立大野小学校 高山 福

1 主題名 みんなでつかうためには 「一りん車」(日本文教出版)

2 内容項目とその系統性

C 規則の尊重

第1学年及び第2学年	約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。
第3学年及び第4学年	約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。
第5学年及び第6学年	法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。
中学校	[遵法精神、公德心] 法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。
低学年の段階において、まだ自己中心性が強く、とすると周囲への配慮を欠いて自分勝手な行動をとることも少なくない。また、身の回りの公共物や公共の場所の使い方や過ごし方についてどうするのがよいのか、そしてそれはなぜなのかといった理解は十分とは言えない。指導に当たっては、身近な約束やきまりを取り上げ、それらはみんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることを理解し、しっかりと守ろうとする意欲や態度を育てることが大切である。また、みんなで使う物や場所を進んで大切に、工夫して使いたいという判断力や態度を身に付けられるように指導することが必要である。(学習指導要領解説より)	

3 教材分析・児童の実態

教材について	児童について
本教材は、主人公のひでくんとまさきくんが、みんなに人気の遊びである一輪車を、他の人に取られないように使用した後、指定の位置に戻すというきまりを破って、体育館裏の倉庫に隠すという話である。遊びたい気持ちが勝り、一輪車を隠したものの、朝礼で先生からそのことを指摘された主人公の気持ちに共感させながら、みんなで使うものや場所を使用するときに大切な心を考えることができる。	本学級の児童は、学校生活でのきまりは守らなければいけないことを理解している。しかし、自分のやりたいこととしたいことと、きまりを選択する際に、自分の思いを優先し、きまりを守ることができていない姿が見られる。これは「公共の物や場所を使用する上でなぜきまりがあるのか」を、十分に理解していないためではないかと考える。そこで、自分だけでなくみんなのことを考えて過ごし、みんなで使う物のきまりを守れるようにしたい。

4 本教材をもとに考える「弱さ」と「弱さを生む状況」

弱さ…みんなで使う物のきまりを守らなければいけないが、私物化したくてきまりをまもらなくてもよいと考えてしまう気持ち
弱さを生む状況…みんなで使う物が限られていて、決まりを破れば自分がみんなで使う物を一人占めできる状況

5 弱さに焦点を当てた三つの活動について

	「表す」活動	「考える」活動	「向き合う」活動
目的	○きまりを守らなければいけないという気持ちはあるものの、自分の気持ちを優先してしまい、きまりを破ってしまうときがあることに気付く。	○「自分のことだけ考えない」「周りの人」のことを考えてきまりを守ることで、弱さを乗り越えていることに気付く。	○自分の気持ちを優先してしまう時にどんな心を大切にしていけるのか、自分自身の弱さと向き合う。
弱さを扱う活動	・登場人物と同じような気持ちになる自分の気持ちを表出して視覚化する。	・自分とまわりの人の笑顔をつなぎながら支援することで、きまりを守るために大切な心を共有化する。	・自分のしたいことができなくなるかもしれないとしても、きまりを守るために大切なことを考え、自覚化する。

6 本時のねらい

一輪車を隠してしまった主人公の気持ちを考えることを通して、みんなで使う物のきまりを守ると自分だけでなくまわりの人が笑顔で過ごせることに気付き、自分だけでなくみんなのことを考えて過ごそうとする判断力を育てる。

7 本時の指導

過程	学習活動、発問 及び 児童の反応	指導上の留意点
導入 ⑤	1 身近なきまりを振り返り、本時の問題意識をもつ。 見つめる心 みんなでつかうものを大切にすると、どんなよさがあるのか考えよう。	○ 問題意識を持たせるために生活アンケートを活用して、きまりは守らなければならないが、やぶってしまうことがあるという場面を想起させ、弱さを生む状況を問う。
展開 ③⑩	2 教材と自分の体験をもとに話し合い、道徳的価値に対する共通解を導き出す。 (1) 教材文の、一輪車をそっとかくした場面の主人公の気持ちを話し合う。【表す】 ○ 一輪車をそっと隠した時のまさきくんはどんな気持ちでしょう。 ・ じぶんたちだけでつかいたいな。 ・ ひでくんが言うならいっしょにかくしたい。 ・ もとのばしょにもどさないといけないかな。 (2) 教材文の、先生の話聞いて、胸がちくりと痛くなった主人公の気持ちを話し合う。【考える】 ◎ 朝礼で、先生の話聞いた時、まさきくんはどんな気持ちでしょう。 ・ かくさないでもどせばよかったな。 ・ ごめんなさい。 ・ みんなにしんぱいをかけてしまった。 (3) みんなで使う物のきまりを守ると、どんなよいことがあるのかを話し合う。 ○ みんなで使う物のきまりをまもって使うと、どんなよさがあるのでしょうか。 ・ じぶんもみんなもえがおになる。 みんなでつかうもののきまりをまもると、じぶんもみんなもニコニコになる。	※弱さを視覚化する工夫 ○ 登場人物の気持ちに共感するために、ICTを用いて動作化を行い、登場人物の置かれている状況を再現する。 ○ 登場人物の心の弱さを視覚化するために、表情図を操作させ、理由を問う。 ※各自の考えを共有化する工夫 ○ 弱さを乗り越える工夫を考え、全体で交流し、価値を深く捉えさせるために、深める発問「笑顔で使えていたから反省しなくていいんじゃない。」を行い、全体で交流する。 ○ 全体で交流をし、価値を深めるために、決まりを守ることのよさを問う。
終末 ⑩	3 みんなのことを考えながら行動することのよさや難しさを振り返り、これからの自分について考える。【向き合う】 ①これから先、きまりがある場面はありますか。 ②それらの場面で出てきそうな弱い心はありますか。 ③そのような状況でもきまりを守るために大切な心をまとめましょう。 ・ 今日の学習で、きまりを守るとみんなが安心して過ごせるということが分かった。今まで、私もきまりを守っていないことがあった。これからは、みんなが安心して過ごせるように考えながら行動したい。	※学びを自覚化する工夫 ○ 今後出会うであろう弱さが表れやすい場面を意識しこれからの自分を考えさせるために、日常生活でのきまりがある場所やものの写真を提示する。

第3学年4組 道徳科学習指導案

指導者 大野城市立大野小学校 飯田 莉羅

1 主題名 よく考えて 「どんどん橋のできごと」(日本文教出版)

2 内容項目とその系統性

A 節度、節制

第1学年及び第2学年	健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。
第3学年及び第4学年	自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度ある生活をする。
第5学年及び第6学年	安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。
中学校	望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。
中学年の段階においては、自分自身で考え度を過ごすことなく、節度のある生活のよさを考えることができるよう自立を重視した指導を進めることが大切である。指導に当たっては、自分でできることを考えさせることが求められる。自分の置かれた状況について思慮深く考えながら、自らを節制し、程よい生活をしていくことは、自分や他の人の快適な生活を守ることにつながることも自覚させる必要がある。(学習指導要領解説より)	

3 教材分析・児童の実態

教材について	児童について
本教材は、友達に誘われたために、危ないとわかりつつ迷いながらも川に傘を投げ入れた主人公が、結果として壊れてしまった傘を見つめ、自分の行動を後悔する話である。よく考え、人に左右されることがなく自ら正しいと信じるところに従って、自分自身を律することの大切さが描かれている。	本学級の児童については、友達との関わりが広がり、グループ活動や遊びなどを通して楽しそうに過ごしている。一方で、状況を見て安全に気を付けた判断ができなかったり、友達の発言に流され、正しい行動ができなかったりする姿も見られる。そこで、自分が信じることを実行することの大切さを感じることができるようになりたい。

4 本教材をもとに考える「弱さ」と「弱さを生む状況」

弱さ…やらない方がよいと思っているが、他者の成功からの安易な予測や、周囲から勇気がないと思われる恐れから、自分を抑えられない気持ち

弱さを生む状況…その行為をしても自分に不利益がない可能性がある状況

5 弱さに焦点を当てた三つの活動について

	「表す」活動	「考える」活動	「向き合う」活動
目的	○いけないと分かっているが、友達との関係や目先の楽しさを優先して行動する心の弱さに気付く。	○この後どうなるか想像し、自分自身のやらないという意思を大切にしようという思いを大切にすることで、弱さを乗り越えていることに気付く。	○自分自身の行動をコントロールしなければいけない時に、どんな心を大切にしていけばよいのか自分自身の弱さと向き合う。
弱さを扱う活動	・登場人物の弱さを、心情メーターを利用して表出し、視覚化する。	・たとえ友達から悪く思われたとしても、主人公が「やらない」と決断するためには、どのような心が大切であるかを考え、共有化する。	・友達に悪く思われたくない、楽しそうだし、大丈夫だろうという弱さが出る時に、どのように考えて行動したらよいかを考え自覚化する。

6 本時のねらい

いけないという気持ちを持ちながらも周囲に流されていけない行動をとってしまい、後悔する主人公の気持ちを考える活動を通して、人に左右されることがなく、よく考え、自分が正しいと信じる心に従って行動することの大切さに気づき、状況を考えて行動するための判断力を育てる。

7 本時の指導

過程	学習活動、発問 及び 児童の反応	指導上の留意点
導入 ⑤	1 周囲に流されて自分が正しいと思う行動ができなかった時の気持ちを考える活動を通して、本時の問題意識をもつ。 ○ いけないとわかっているけど、行動してしまう時、どのようなことを考えているでしょう。 ・わかっているけど、大丈夫かなと思う。 ・みんなやっているし、自分だけしないのはいやだ。 見つめる心 はんだんにまよったときに大切な心を考えよう。	○ 本時の問題意識をもつために、いけないとわかっているけど自分の判断通りの行動ができない自分がいるという弱さを生む複数の状況を問う。
展開 ③⑩	2 教材と自分の体験をもとに話し合い、自制心を保つために大切なことについて明らかにする。 (1) 教材文の、いけないと分かっているながら、傘を投げ入れるか迷う場面の主人公の気持ちを話し合う。【表す】 ○ 友だちの話を聞いて、ぼくはどんなことを考えていたでしょう。 ・こわれるかもしれないから、傘を入れたくない。 ・でも勇気がないと思われるかも。 ・2人とも成功しているから、きっと大丈夫。 (2) 教材文の、壊れた傘を見つめる場面の主人公の気持ちを考え、話し合う。【考える】 ○ ボロボロになった傘を見て、「ぼく」はどのようなことを考えたでしょう。 ・どうしよう、傘が壊れてしまった。 ・壊れるかもしれないって、どうして気付かなかったんだろう。 ・友達が何を言っても気にしなければよかった。 ・本当はやらないほうが良いとわかっていたのに。 先のことを考え、周囲に流されずに自分の思いを大事にする心。	※弱さを視覚化する工夫 ○ よくないことだとわかっているけど、周囲の状況や、楽観的な判断により、自分が正しいと思う判断ができない心が生まれる時があることを捉えさせるために、心情図(赤:入れない 青:入れる)を用いる。 ※各自の考えを共有化する工夫 ○ 弱さを乗り越える工夫を考え、価値を深く捉えさせるために、深める発問「でも、他のみんなに勇気がないと思われるのは嫌じゃない。」「二人の傘はこわれてないから、大丈夫と思ってしまうのは仕方ないよね。」を行う。
終末 ⑩	3 節度・節制の価値を実現することのよさや難しさを振り返り、これからの自分について考える。【向き合う】 ①今までよく考えて行動できなかった場面はありますか。 ②それらの場面で出てきそうな弱い心はありますか。 ③そのような状況でも自分の弱さに負けず行動するために大切な心をまとめましょう。 ・わかっているけど、友達と一緒にだといいたくなくてルールをやぶってしてしまうことがある。でも、もしかしたら次は危ない目にあうかもしれないし、本当に大丈夫か自分でしっかり考えて決めて、断る勇気を持ちたい。	※学びを自覚化する工夫 ○ 今後出会うであろう弱さが表れやすい場面を意識し、これからの自分を考えさせるために、日常生活において自制ができなくなりそうな場면을提示する。

第3学年5組 道徳科学習指導案

指導者 大野城市立大野小学校 友田 梨央

1 主題名 自分に正直に 「まどガラスと魚」(日本文教出版)

2 内容項目とその系統性

A 正直, 誠実

第1学年及び第2学年	うそをついたりごまかしをしたりしないで, 素直に伸び伸びと生活すること。
第3学年及び第4学年	過ちは素直に改め, 正直に明るいい心で生活すること。
第5学年及び第6学年	誠実に, 明るいい心で生活すること。
中学校	自律の精神を重んじ, 自主的に考え, 判断し, 誠実に実行して, その結果に責任をもつこと。
中学年の段階においては, 他者に対してうそを言ったり, ごまかしをしたり, そのことが自分自身をも偽ることにつながっていく。そのような時期だからこそ, 正直であることの快適さを自覚したり, 過ちを犯した時には素直に反省し, そのことを正直に伝えるなどして改めたりしようする気持ちを育むことが求められる。このことは, たとえ仲のよい仲間集団の中にあっても, 周囲に安易に流されない強い心を養う要ともなる。指導に当たっては, 正直であるからこそ, 明るいい心で伸び伸びとした生活ができることを理解し, この段階の活動的な特徴を生かしながら, 元氣よく生活できるように指導することが大切である。(学習指導要領解説より)	

3 教材分析・児童の実態

教材について	児童について
本教材は, よそのうちの窓ガラスを割って逃げてしまった千一郎が, 割ったことを正直に謝るか謝らないかを迷いながらも, 近所のお姉さんの行動に心を動かされ, 窓ガラスを割ってしまったことを正直に告白する話である。正直に行動することのよさが描かれている。	本学級では, 自分の過ちを素直に認めることができる児童がいる一方で, 自分が不利になってしまうことにうそを言ったりごまかしたりしてしまう児童も見受けられる。これは, 過ちを素直に認め正直に謝ることが, 明るいい心で楽しく生活できることにつながると気付いていないからだと考える。そこで, 正直に行動することのよさに気付き実践できるようにしたい。

4 本教材をもとに考える「弱さ」と「弱さを生む状況」

弱さ…正直でいる方がよいと知っているが, 叱られたくない, ばれたくない気持ち
 弱さを生む状況…自分が不利になる状況, 正直に言わない限りばれることはない状況

5 弱さに焦点を当てた三つの活動について

	「表す」活動	「考える」活動	「向き合う」活動
目的	○いけないと分かっているけれど, 自己逃避や自己中心的な考えなどで自分の過ちをごまかしてしまう心の弱さに気付く。	○自分の過ちをごまかすことは相手も自分も気持ちがよくないことや, 自分に正直でいると心がすっきりするという気持ちで弱さを乗り越えていることに気付く。	○いけないと分かっているながらも自分の過ちをごまかしてしまう時に, どんな心を大切にしていけばよいのか自分自身の弱さと向き合う。
弱さを扱う活動	・登場人物の弱さを, 心情図を利用して表出し, 視覚化する。	・正直に話すことで叱られるとしても, 気持ちよく過ごすためにはどんな心が大切かを考え共有化する。	・叱られたくない, ばれたくないという弱さが出る時に, どのように行動したらよいか考え, 自覚化する。

6 本時のねらい

主人公の千一郎が、過ちを認めて正直に話すことができた理由を考えるを通して、過ちをごまかしているとしつきりせず心が暗くなるけれど、素直に認め正直に謝ると晴れ晴れとした気持ちになることに気づき、明るく生活しようとする実践意欲と態度を育てる。

7 本時の指導

過程	学習活動、発問 及び 児童の反応	指導上の留意点
導入 ⑤	1 過ちに対して正直に行動ができなかったことがあるかを問う事前アンケートをもとに、正直でいることが大切だとわかっているながらもごまかしてしまった経験を振り返り、本時の問題意識をもつ。 ○ うそやごまかしをしてしまったことはありますか。 ・ 友達の物を壊してしまったけど、黙っていた。 —見つめる心— なぜ、正直に行動することが大切なのかを考えよう。	○ 問題意識をつかませるために、正直に行動することが大切だと分かっているが、できない自分がいるという弱さを生む状況を問う。
展開 ⑩	2 教材と自分の体験をもとに話し合い、正直に行動することの価値について明らかにする。 (1) いけないと分かっているけれど、謝ることができない場面の千一郎の気持ちを話し合う。【表す】 ○ 窓ガラスを割ってからの数日間、千一郎はどんなことを考えていたでしょう。 ・ 怒られるのが怖い。 ・ 黙っていれば自分だとばれない。 ・ 気持ちがもやもやして苦しい。 (2) 自分の過ちを正直に話すことを決めた千一郎の心が変容した理由を話し合う。【考える】 ◎ あんなにも正直に言えなかった千一郎が本当のことを言おうと心に決めたのはなぜでしょう。 ・ お姉さんのように悪いことは謝らないといけなから。 ・ 正直に話すと自分の心がすっきりするから。 ・ 正直に話して、これから気持ちよく過ごしたいから。 すっきりした気持ちになり、明るく過ごすことができる。	※弱さを視覚化する工夫 ○ 正直に行動することが大切だとわかっているけど、うそやごまかしをしてしまいたい心が生まれる時があることを捉えさせるために、心情図(赤:言う 青:言えない)を提示し、それぞれの考えを板書に整理する。 ※各自の考えを共有化する工夫 ○ 弱さを乗り越える工夫を考え価値を深く捉えさせるために、深める発問「でも、正直に話すととても怒られるかもしれないよ。」を行う。
終末 ⑩	3 正直に行動することのよさや難しさを振り返り、これからの自分について考える。【向き合う】 ①これから先、正直に行動する場面はありそうですか。 ②それらの場面で出てきそうな弱い心が出てきますか。 ③そのような状況でも正直に行動するために大切な心をまとめましょう。 ・ わたしはこれから、正直に行動するようにしたい。なぜなら、正直に行動するとすっきりして気持ちよく過ごすことができるから。もし、友達の物を壊してしまったら、誰が壊したのか分からないと友達とはもやもやすると思うし、私も自分が壊したと正直に言った方がすっきりするから、謝るようにしたい。	※学びを自覚化する工夫 ○ 今後出会うであろう弱さが表れやすい場面を意識し、これからの自分を考えさせるために、日常生活でのうそやごまかしをしてしまいたいような場面のイラストを提示する。

第4学年3組 道徳科学習指導案

指導者 大野城市立大野小学校 櫻井 力靖

1 主題名 友達のことを考えて 「絵はがきと切手」(日本文教出版)

2 内容項目とその系統性

B 友情, 信頼

第1学年及び第2学年	友達と仲よくし, 助け合うこと。
第3学年及び第4学年	友達と互いに理解し, 信頼し, 助け合うこと。
第5学年及び第6学年	友達と互いに信頼し, 学び合って友情を深め, 異性についても理解しながら, 人間関係を築いていくこと。
中学校	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち, 互いに励まし合い, 高め合うとともに, 異性についての理解を深め, 悩みも葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。
中学年の段階においては, 集団との関わりも増え, 友達関係も広がってくる。また, 気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し, 楽しもうとする傾向があり, 集団での活動などがこれまでになく盛んになる。しかし, 自分の利害にこだわることで, 友達とトラブルを引き起こすことも少なくない。指導に当たっては, 友達のことを互いによく理解し, 信頼し, 助け合うことで, 健全な仲間集団を積極的に育成していくことが大切である。そのためには, 友達のよさを発見することで友達のことを理解したり, 友達とのよりよい関係の在り方を考えたり, 助け合うことで友達の大切さを実感したりすることができるように指導することが大切である。(学習指導要領解説より)	

3 教材分析・児童の実態

教材について	児童について
本教材は, 料金不足の定形外はがきをもらったひろ子が, 送り主である親友の正子に料金不足を伝えるかどうかを迷う話である。料金不足のことを伝えた方がよいと言う兄と, お礼だけ言った方がよいと言う母の考えの間で葛藤したひろ子は, 「きっとわかってくれる」と信じ, 伝えることを決める。互いのことを信頼し, 相手のことを思って行動することの大切さが描かれている。	本学級の児童は, 仲が良く, 男女関係なくみんなで遊んでいる。しかし, 遊びの中で相手を責めたり, 忠告を受け入れず, トラブルになったりすることがある。これは, 相手のことを思っての忠告ではなく, 自分の利害にこだわっているからである。その自己中心的な気持ちが相手に伝わるからこそ, 相手も受け入れられなくなっている。そこで, 本時学習を通して, よりよい友達関係の在り方について考えさせていきたい。

4 本教材をもとに考える「弱さ」と「弱さを生む状況」

弱さ…伝えた方がよいとわかってるのに, 相手との関係性を信じきれずに伝えようか迷う気持ち
 弱さを生む状況…伝えることで相手との関係が壊れるかもしれない状況, 伝えないことも優しさで捉えられる状況

5 弱さに焦点を当てた三つの活動について

	「表す」活動	「考える」活動	「向き合う」活動
目的	○間違えていることを伝えた方がよいとわかっていても, 相手がどう思うかを恐れて迷う心の弱さに気付く。	○友達とのよい関係とは, 相手を思って行動し, 相手に対して, きっとわかってけると信頼し, 忠告し合える関係であることに気付く。	○関係性が壊れることを怖れて友達に忠告することをためらってしまう時に, どんな心を大切にしていけばよいのか自分自身の弱さと向き合う。
弱さを扱う活動	・登場人物の心の迷いを, 心情図を利用して表出し, 視覚化する。	・正子が気分を害するかもしれないのに, よし子は, なぜ伝えようと思うことができたのか考えを共有化する。	・傷つけたくない, 嫌われたくないという弱さが出る時に, どのように行動したらよいか考えを自覚化する。

6 本時のねらい

友達からの絵はがきが料金不足だったことを知らせるかどうかが悩んだ末に、正子に本当のことを伝えようと決めたひろ子の気持ちを考えることを通して、友達とのよい関係とは互いを信じ合い、相手のために行動できる関係であることに気づき、友達とよりよい関係を築こうとする心情を育てる。

7 本時の指導

過程	学習活動、発問 及び 児童の反応	指導上の留意点
導入 ⑤	1 よい友達とはどのような関係の友達か問う事前アンケートを基に友達関係を振り返り、本時の問題意識をもつ。 ○ よい関係の友達とはどのような友達ですか。 ・一緒にいて楽しい。助け合える。 ・一緒にいろいろなことができる。 —見つめる心— よい友達との関係とはどのような関係なのか、考えよう。	○ 友達との関係は「楽しい」「助け合い」など良い点ばかりに目を向けがちなこと気付けるように、友達との良い関係についてアンケート結果を提示する。
展開 ⑩	2 教材と自分の体験をもとに話し合い、友達を信じ、相手を持って行動することの価値について明らかにする。 (1) 教材文の、料金不足について伝えるかどうか悩む場面のひろ子の気持ちを話し合う。【表す】 ○ 悩むひろ子は、どのようなことを考えていたでしょう。 ・せっかく送ってくれたのに、いやな思いをさせたくないから伝えない。 ・正子さんが傷つくかもしれないから伝えないでおこう。 ・自分のためにしてくれたことだし、嫌われたくないから伝えない。 ・他の人にも送ってしまうかもしれないから伝えた方がいい。 (2) 教材文の、自分の過ちを正直に話すことを決めたひろ子の心が変容した理由を話し合う。【考える】 ◎ なぜ手紙の最後に切手のことを書き足そうと思うことができたのでしょうか。 ・大切な友達だから教えてあげたいと思ったから。 ・正子さんは、きっとわたしが正子さんのことを大切に思っていることをわかってくれるから怒ったりしないと信じられたから。 ----- お互いを信じ合って、相手のためになることを考えて行動しようとする関係。	※弱さを視覚化する工夫 ○ 伝えないと相手のためにならないとわかっていても、伝えることをためらう心が生まれる時があることを捉え、心情図（赤：伝える 青：伝えない）を用いる。 ※各自の考えを共有化する工夫 ○ 弱さを乗り越える工夫を考え、価値を深く考えさせるために、深める発問「<u>伝えたら正子さんは自分のことを嫌いになるかもしれないよ。」「正子さんを傷つけるようなことをしなくてもいいのでは。」</u>を行う。
終末 ⑩	3 勤労の価値を実現することのよさや難しさを振り返り、これからの自分について考える。【向き合う】 ① 友達に伝えるににくい場面はありますか。 ② それらの場面で出てきそうな心はありますか。 ③ そのような状況でも友達のための行動をするために大切な心をまとめましょう。 ・友達に嫌われるのが心配で、いけない行動を止めたり、間違えを伝えたりするのができなかったことがある。 ・でも相手のことを大切に思うなら、言った方がいい。伝え方を考えながら言えば、親友ならわかってくれると思うし、嫌いになったりしないと思う。	※学びを自覚化する工夫 ○ 今後出会うであろう弱さが表れやすい場面を意識し、これからの自分を考えさせるために、日常生活で友達と忠告し合うことをためらう場面を提示する。

第4学年4組 道徳科学習指導案

指導者 大野城市立大野小学校 山形 克二

1 主題名 正直はだれのため 「新次のしょうぎ」(日本文教出版)

2 内容項目とその系統性

A 正直, 誠実

第1学年及び第2学年	うそをついたりごまかしをしたりしないで, 素直に伸び伸びと生活すること。
第3学年及び第4学年	過ちは素直に改め, 正直に明るいい心で生活すること。
第5学年及び第6学年	誠実に, 明るいい心で生活すること。
中学校	自律の精神を重んじ, 自主的に考え, 判断し, 誠実に実行して, その結果に責任をもつこと。
中学年の段階においては, 他者に対してうそを言ったり, ごまかしをしたり, そのことが自分自身をも偽ることにつながっていく。そのような時期だからこそ, 正直であることの快適さを自覚したり, 過ちを犯した時には素直に反省し, そのことを正直に伝えるなどして改めたりしようとする気持ちを育むことが求められる。このことは, たとえ仲のよい仲間集団の中にあっても, 周囲に安易に流されない強い心を養う要ともなる。指導に当たっては, 正直であるからこそ, 明るいい心で伸び伸びとした生活ができることを理解し, この段階の活動的な特徴を生かしながら元気よく生活できるように指導することが大切である。 (学習指導要領解説より)	

3 教材分析・児童の実態

教材について	児童について
本教材は, 不正をきっかけに勝負に勝ってしまった新次が, 次の試合, さっきの不正で勝ったことの苦しさで「気付かれないように」という思いでかたくなり負けてしまう。その後, 雨の中, 帰りながら自分のしたことを後悔し悲しくなり, 「あやまらなければならない。」と傘を持つ手に涙がこぼれたという内容である。うそやごまかしをしても結局は自分自身が後悔にさいなまれるなど, 自分自身に目を向けるようになる様子が描かれている。	本学級の児童は, 自分の過ちを素直に認めることができるなど, 正直に行動することが大切だと分かっている。しかし, 頭では分かっているが, いけないことをした時, 時には, ついうそを言ったりごまかしたりしてしまうことがある。これは, 自己逃避, 自己中心性などの弱さがあるからだと考える。そこで, うそやごまかしをすると, 自分自身を苦しめることに気付かせ, 自分の心に正直に自信をもって生活していきたいという心情を高めていきたい。

4 本教材をもとに考える「弱さ」と「弱さを生む状況」

弱さ…ごまかしやずるなどをするはいけないと思うが, ばれたくない, 怒られたくない, ほめられたいなど, 自分の思いを優先してしまう気持ち 弱さを生む状況…自分にとって得のある状況, だまっていれば, ばれない状況

5 弱さに焦点を当てた三つの活動について

	「表す」活動	「考える」活動	「向き合う」活動
目的	○ずるやごまかしをすることはいけないと分かっているけれど, 自己逃避や自己中心的な考えなどから過ちをおかしてしまう心の弱さに気付く。	○ずるやごまかしをしてしまうと, 周りの人はごまかさせても自分自身はごまかすことはできず, 自分を苦しめてしまうという気持ちで弱さを乗り越えていることに気付く。	○自分が過ちをおかした時にどんな心を大切にしていくなのか, 自分自身の弱さと向き合った上で自分の答えを見出す。
弱さを扱う活動	・登場人物の気持ちの弱さを心の数直線(ICT)を利用して表出し, 視覚化する。	・ずるやごまかしたことを相手が知らない状況でも, ずるをしたことを正直に伝えることが大切な理由を共有化する。	・自分にとってより弱さが出る状況を選択し, 自分の答えを考えさせることで, 本時の学びを自覚化する。

6 本時のねらい

新次が、ずるやごまかしたことを伝えることを涙を流しながら決めた理由を考えることを通して、ずるやうそをつくことは、周りの人をごまかせても自分自身はごまかすことができず、自分自身を苦しめてしまうことに気付き、自信をもって正直に生活していこうとする心情を育てる。

7 本時の指導

過程	学習活動、発問 及び 児童の反応	指導上の留意点
導入 ⑤	1 これまでに自分がおかしたずるとごまかしやその時の気持ちを話し合い、本時の問題意識をもつ。 ○ ずるやうそをごまかしたことはありますか。 ・宿題をしていない時、ばれなければ大丈夫と思ってしまっとうそをついてしまうことがあるよ。 見つめる心 なぜ、正直な心をもつことが大切なのか考えよう。	○ 問題意識をもたせるために、正直で生きることが大切だと分かっているも、ずるやごまかしをしてしまう自分がいるという弱さを生む複数の状況を事前アンケートをもとに問う。
展開 ③⑩	2 教材と自分の体験をもとに話し合い、正直・誠実の価値について明らかにする。 (1) 不正をして伊三郎おじさんに勝ったときの新次の気持ちを話し合う。【表す】 ○ 不正をして勝ったことを黙ったままの新次はどんな気持ちでしょうか。 ・悪いから伝えたいけれど、言うと怒られる。 ・大人に勝つためにはしょうがない。 ・これから信用されなくなって将棋ができなくなるかもしれない。 (2) ずるをして勝ってしまったことを伝えることを決めた新次の心が変容した理由を話し合う。【考える】 ◎ あんなにもごまかし続けた新次がなみだを流しながら正直に伝えようと思ったのは、どんな気持ちがこみあげてきたからでしょうか。 ・伊三郎おじさんに申し訳ないという思い。 ・自分のことが許せない、正直でありたいという思い。 ・不正をした自分が情けなく恥ずかしいという思い。 ・自分に自信をもって過ごしていきたいという思い。 周りはごまかせても、自分自身はごまかすことができず、自分自身を苦しめるから。	※弱さを視覚化する工夫 ○ 正直な心をもつことが大切だとわかっていても、ずるをごまかしてしまいたい心の弱さがあることを捉えさせるため、心の数直線を用いる。 ○ 後悔や自責の念が強くなっていることを捉えさせるため、勝った後ににこにこしている場面や佐平おじさんと将棋をしている場面などの新次の気持ちを問う。 ※各自の考えを共有化する工夫 ○ 弱さを乗り越える工夫を考え価値を深く捉えさせるために、深める発問の「伊三郎おじさんをごまかせているからわざわざ伝えなくてもいいのではないですか。」「周りの人はごまかせても、ごまかすことができないのは誰ですか。」などを行う。
終末 ⑩	3 正直、誠実の価値を表現するよさや難しさをふり返り、これからの自分について考える。【向き合う】 ①これから先、ずるやごまかしそうな場面はありますか。 ②それらの場面で出てきそうな弱い心はありますか。 ③そのような状況でも正直な心をもつために大切なことをまとめましょう。 ・わたしはこれから、うそやごまかさないように正直な心もちたい。なぜなら、ずるをする自分が恥ずかしいから。もしも、宿題をしていない時、おこられるからごまかしたいといった気持ちが出てきたら、言った方がすっきりし、明るく生活できると考えたい。	※学びを自覚化する工夫 ○ 今後出会うであろう弱さが表れやすい場面を意識し、これからの自分を考えさせるために、導入で使った事前アンケートなどを再提示する。

第4学年5組 道徳科学習指導案

指導者 大野城市立大野小学校 川浪 信子

1 主題名 勇気をもって 「遠足の朝」(日本文教出版)

2 内容項目とその系統性

A 善悪の判断, 自律, 自由と責任

第1学年及び第2学年	よいことと悪いこととの区別をし, よいと思うことを進んで行うこと。
第3学年及び第4学年	正しいと判断したことは, 自信をもって行うこと。
第5学年及び第6学年	自由を大切に, 自律的に判断し, 責任のある行動をすること。
中学校	自律の精神を重んじ, 自主的に考え, 判断し, 誠実に実行してその結果に責任をもつこと。
中学年の段階においては, 児童は様々な学習や生活を通して, 正しいことや正しくないことについて判断力が高まってくる。しかし, 正しいことと知りつつも, そのことをなかなか実行できなかったり, 悪いことと知りながらも周囲に流されたり, 自分の弱さに負けたりしてしまうこともある。指導に当たっては, 正しいことを行えないときの後ろめたさや, 自ら信じることに従って正しいことを行ったときの充実した気持ちを考え, 正しいと判断したことは自信をもって行い, 正しくないとは判断したことは行わないようにする態度を育てる必要がある。特に, 正しくないと考えられることを人に勧めないことはもとより, 人から勧められたときにきっぱりと断ったり, 正しくないと考えられることをしている人を止めたりできるように指導することが大切である。(学習指導要領解説より)	

3 教材分析・児童の実態

教材について	児童について
本教材は, 遠足のグループを決める際に, 仲間外れにされているなおみに気付いた主人公「わたし」が, なおみに声をかけることが正しいと思いながらも, 自分のグループへの気遣いと自分にもられるかもしれないという心配を抱えて葛藤する。しかし, 相談した友達も同じ思いだったため, なおみに「グループに入ってくれない」と声をかけるという内容である。葛藤を乗り越えて正しいと信じたことを貫く様子が描かれている。	本学級の児童は, さまざまな経験の中で物事の善悪を判断することができるようになってきている。正しいことを行うことは大切だと考え, 行うことも大体できている。しかし, いけないと分かっているにもかかわらず, 集団になるとできなくなったり, 仲の良い友達の中では正しい行動がとれなかったりすることがある。これは, 正しいと思う行動に自信がなかったり, その行動をする勇気が出なかったりして, そのままにしてしまう心の弱さがあるからだと考える。そこで, どのような状況でも, 正しいと判断したことを, 勇気をもって行うことができるようにしたい。

4 本教材をもとに考える「弱さ」と「弱さを生む状況」

弱さ…ひとりぼっちでいる子に声をかけることは正しいと思う気持ちはあるけれど, 自分にもられるかもしれないと不安に思い, 声をかけるかどうか迷う気持ち 弱さを生む状況…声をかけることで, 周りから嫌がられたり, にらまれたりするかもしれない状況

5 弱さに焦点を当てた三つの活動について

	「表す」活動	「考える」活動	「向き合う」活動
目的	○「わたし」を通して, 何とかしなくてはいけないという気持ちはあるものの, 自分にもられるかもしれないという不安な気持ちもあることに気付く。	○ひとりぼっちになったなおみの表情に気付き, 「にらまれるかもしれないと不安だけれど, ここで知らん顔するのはよくないことだ」という気持ちで弱さを乗り越えていることに気付く。	○どんなときでも正しいと思うことを行うために, どんな心を大切にしていくなか, 自分自身の弱さと向き合った上で自分の考えを構築する。
弱さを扱う活動	・登場人物の気持ちを心情メーターで表出して視覚化する。	・自分の弱さに負けずに, 正しいと判断したことを行うことのよさについて考えを深め共有化する。	・正しいことをする難しさについて考え, 本時の学びを自覚化する。

6 本時のねらい

主人公が正しいと判断したことを、自信をもって行うことができたときの心情を考えるを通して、迷っても自分が正しいと思うことを行えたときの清々しさや、正しく行動することの大切さに気づき、自信をもって正しいことを行おうとする判断力を育てる。

7 本時の指導

過程	学習活動、発問 及び 児童の反応	指導上の留意点
導入 ⑤	1 正しいと判断したことができているかについて、事前アンケートをもとに話し合い、本時の問題意識をもつ。 ○ 正しいと判断したことを行うのは大切だと思うのにできないのはなぜですか。 ・仲がいい友達だから言いにくい。 ・いけないと分かっているけど、誘われたら行きたい。 見つめる心 どんなときも正しいと思うことを行うために、どんなことが大切か考えよう。	○ 問題意識をもたせるために、正しいと思っていなくても行うことは難しいことが表れている事前アンケートの結果を提示する。
展開 ③⑩	2 教材と自分の体験をもとに話し合い、善悪の判断の価値について明らかにする。 (1) ひとりぼっちのなおみを見て、誘うか誘わないかを迷っているときの「わたし」の気持ちの葛藤について話し合う。【表す】 ○ 迷っている「わたし」は、なおみを誘うと思いますか、誘わないと思いますか。なぜ、そう思いますか。 〔誘う〕 ・一人であるのはかわいそう。 ・にらまれたら嫌だけど、知らないふりはよくない。 〔誘わない〕 ・ことちゃんとれなちゃんが「嫌。」って言うかも。 ・誘う勇気がない。 ・誘ったら、わたしもひとりぼっちにされるかも。 ・なおみに断られたら嫌だから。 (2) 正しいと考えたことを行うために大切なことは何かを話し合う。【考える】 ◎ 誘うことを迷っていた「わたし」は、なぜ、なおみを誘うことができたのでしょうか。 ・勇気を出して正しいと思ったことは自信をもってやろうと思ったから。 ・仲間外れはいけないし、なおみさんがかわいそう。 ・周りの人は誘わなくても知らんふりをするのはやっぱりよくないから、自分は誘おうと思ったから。 ・みんなでいっしょの方が楽しいから。 ・なおみさんのことを考えて勇気を出したから。 正しいと思ったことは、周りの目や意見を気にせず、自信をもって行うことが大切。	※弱さを視覚化する工夫 ○ 自分にも、主人公と同じように正しいと思うことを行おうとする気持ちがあっても、周りの目を気にしたり、勇気がなかったりして行動できない心の弱さがあることを捉えさせるために、心情メーター（赤：誘う 青：誘わない）を用いる。 ※各自の考えを共有化する工夫 ○ 弱さを乗り越え価値を深く捉えさせるために、深める発問「<u>誘った後に、ゆきさんたち4人からにらまれたとしたら、『わたし』は誘ったことを後悔したと思うか。</u>」を行う。 ○ 正しいと考えたことを行えた清々しさやその行為の素晴らしさに気付かせるために、なおみが笑顔で登校してきた遠足の朝の挿絵を提示する。
終末 ⑩	3 善悪価値のを実現することのよさや難しさを振り返り、これからの自分について考え、交流する。【向き合う】 ①これから大切にしていきたいことは何ですか。 ②そうしたい理由は、なぜですか。 ③もし、弱さが出てきたらどうしますか。 ・これから、自分が正しいと思ったことは、周りを気にせずに勇気をもってやりたい。なぜなら、正しいことをするとすっきりして気持ちがいいから。もし、仲良しの友達に誘われたとしても、迷わずに「だめだ。」と注意する。	※学びを自覚化する工夫 ○ 今後、出会うであろう弱さが表れやすい場面を意識して、これからの自分を考えさせるために、事前アンケートの日常生活の場面などのイラストを提示する。

第5学年3組 道徳科学習指導案

指導者 大野城市立大野小学校 豊世 菜々子

1 主題名 広い心 「折れたタワー」(日本文教出版)

2 内容項目とその系統性

B 相互理解, 寛容

第3学年及び第4学年	自分の考えや意見を相手に伝えとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。
第5学年及び第6学年	自分の考えや意見を相手に伝えとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。
中学校	自分の考えや意見を相手に伝えとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。
高学年の段階においては、相手の意見を素直に聞き、なぜそのような考え方をするのかを、相手の立場に立って考える態度を育てることが求められる。指導に当たっては、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することで、違いを生かしたよりよいものが生まれるといった実現することのよさや、相手の過ちなどに対しても、自分にも同様なものがあることとして謙虚な心、広い心で受け止め、適切に対処できるように指導することが大切である。(学習指導要領解説より)	

3 教材分析・児童の実態

教材について	児童について
本教材は、主人公のひろしが忘れ物をして給食当番ができなかったことで同じ当番ののりおから強く責められ、悔しい思いをする。数日後、ひろしが一生懸命に作った作品をのりおに壊されてしまう。悔しく許せなかったけれど、うつむいて謝るのりおの姿からあの日の自分の姿と重ね、「誰にでも失敗はある」という見方に変わり、のりおの失敗を許すという内容である。自分を含めた誰もが失敗や過ちをしてしまうことがあり、広い心で受け止め、対処していく姿が描かれている。	本学級の児童は、故意ではない相手の失敗や過ちを責めるべきではないと考え、許すことができた経験もある。しかし、仲間が転んでリレーで負けてしまった際に「もう、負けてしまった。」と受け入れることができなかった経験がある。これは、相手が失敗した際にその動機に目を向けたり、自分も失敗を犯すかもしれないと想像したりすることが不十分であるからだと考え。そこで、相手の故意ではない失敗や過ちに対して、自分に不利益がある場面でも相手の立場を考えて広い心で受け止めることができるようにしたい。

4 本教材をもとに考える「弱さ」と「弱さを生む状況」

弱さ…相手の故意ではない失敗は受け入れた方がよいと思っているが、許すことができないと葛藤する気持ち

弱さを生む状況…自分にとっての不利益や同様な場面で責められた経験があると許すことができない状況

5 弱さに焦点を当てた三つの活動について

	「表す」活動	「考える」活動	「向き合う」活動
目的	○登場人物の立場だったらどんな気持ちになるかを考え、許そうという気持ちはあるが、許すことができない気持ちもあることに気付く。	○ひろしが「いつでも誰にでも失敗はある」、「何か理由があったのかもしれない」という気持ちで弱さを乗り越えていることに気付く。	○故意ではない相手の失敗や過ちの場面を想起し、許せない気持ちをもった時にどんな心を大切にしていくのか、自分自身の弱さと向き合う。
弱さを扱う活動	・登場人物と同じような気持ちになる自分の気持ちを表出して視覚化する。	・相手が故意ではない失敗をした時に、受け入れるために大切な心について考え共有化する。	・様々な場面において自分にとって不利益なことがおきても相手を受け入れるために大切なことを考え自覚化する。

6 本時のねらい

主人公のひろしが、自分にとって不利益な状況であったにもかかわらず、許すことができた理由を考えることを通して、失敗や過ちは誰にでもあることや相手の状況（立場）に気付き、広い心で受け止めて相手の失敗や過ちに接しているという実践意欲と態度を育てる。

7 本時の指導

過程	学習活動、発問 及び 児童の反応	指導上の留意点
導入 ⑤	1 人の失敗や過ちを許すことが本当にできるかについて提示した事例をもとに話し合い、本時の問題意識をもつ。 ○ わざとではない相手の失敗を許すことはできますか。 ・しょうがないから許す。 ・自分が嫌な思いをするなら許せないかも。 —見つめる心— 友達の失敗を受け入れるために大切な心について考えよう。	○ 問題意識をもたせるために、わざとではない失敗に対して許した方がよいと分かっていても、許すことができない弱さを生む状況を問う。
展開 ③⑩	2 教材と自分の体験をもとに話し合い、寛容の価値について明らかにする。 (1) 教材文の、のりおから図工の時間に一生懸命作ったタワーを掃除時間に壊された気持ちについて話し合う。【表す】 ○ のりおから図工の時間に一生懸命作った作品を壊された時の気持ちはどんな気持ちだろう。 ・一生懸命作った作品だから許さない。 ・わざとではないから、しょうがない。 (2) 教材文の、「わざと落としたんじゃないだろ。仕方がないさ。」と言いながらのりおを許すことができたひろしの気持ちを話し合う。【考える】 ◎ 許すことができなかったのりおに「わざと落としたんじゃないだろ。仕方がないさ。」といった言葉を言えたのはなぜだろう。 ・自分が責められた時と同じ思いをさせたくないから。 ・同じようなことがあるのりおの気持ちが分かったから。 ・のりおは一生懸命掃除をしていたかもしれないから。 誰にでも失敗はあることや相手の状況（立場）を考えることが大切。	※弱さを視覚化する工夫 ○ 許したいけれど許せないと葛藤する心があることを理解させるために、ひろしと同じ状況における心情メーターを大型提示装置に映す。 ※各自の考えを共有化する工夫 ○ 弱さを乗り越える工夫を考え価値を深く捉えさせるために、深める発問「完成までに何時間もかかって、先生もほめてくれて、お父さんに見せることを楽しみにしていたのにそれでもみんなは同じように許すことができますか。」を行う。
終末 ⑩	3 寛容の価値を実現することのよさや難しさを振り返り、これからの自分について考える。【向き合う】 ①これから先、自分が困る相手の失敗が起きそうな場面はありますか。 ②それらの場面で出てきそうな弱い心はありますか。 ③そのような状況でも相手の失敗を受け入れるために大切な心をまとめましょう。 ・私はこれからも、わざとではない友達の失敗を許すようにしていきたい。なぜなら、失敗は誰にでもあるし、責めてもしょうがないから。もしも、体育のリレーで友達がミスをして許せないと思った時には、お互い様だったり、友達の今までの頑張りなどを考えたりしていきたい。	※学びを自覚化する工夫 ○ 今後出会うであろう弱さが表れやすい場面を意識しこれからの自分を考えさせるために、導入での弱さの出やすい場面を再度提示する。

第5学年5組 道徳科学習指導案

指導者 大野城市立大野小学校 前田 晏佳

1 主題名 親かな思い 「くずれ落ちただんボール箱」(日本文教出版)

2 内容項目とその系統性

B 親切, 思いやり

第1学年及び第2学年	身近にいる人に温かい心で接し, 親切にすること。
第3学年及び第4学年	相手のことを思いやり, 進んで親切にすること。
第5学年及び第6学年	誰に対しても思いやりの心をもち, 相手の立場に立って親切にすること。
中学校	思いやり, 感謝の心をもって人と接するとともに, 家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し, 進んでそれに応え, 人間愛の精神を高めること。
高学年の段階においては, 自他を客観的に捉えることができるようになってくる。指導に当たっては, 特に相手の立場に立つことを強調する必要がある。自分自身が相手に対してどのように接し, 対処することが相手のためになるのかをよく考えた言動が求められる。また, 人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え, 思いやりの心とそれが伴った親切な行為を, 児童が多様な人々と触れ合い, 助け合って何かをするような機会を増やすとともに, それらの体験を生かし, 思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えられるように工夫する必要がある。(学習指導要領解説より)	

3 教材分析・児童の実態

教材について	児童について
本教材は, わたしと友子さんがショッピングセンターで男の子が落としただんボール箱をおばあさんの代わりに片付けたが, 自分達が落としたのだと店員さんに注意される。しかし, 注意されたことをおばあさんには伝えず, 後日店員さんから誤解したことを謝られ, お礼を伝える手紙を全校で紹介される内容である。知らない相手, 気付いてもらえない場合でも相手の立場に立って親切にした主人公の素晴らしさが描かれている。	本学級の児童は, 積極的に友達や教師の手伝いをする姿が見られる。しかし, 相手が知らない人や明確でない場合や, 自分の親切に誰も気付いてくれそうにない場面では, 自分から進んで誰かのためを思って行動することはできない。これは, 相手のために親切にしようとする気持ちはあるが, 周りの状況や相手によって, 自分が周りからどう思われるかが気にかかり, 親切にしたい気持ちや親切な行動を妨げてしまっているからだと考える。そこで, どんな状況でも, 相手の立場に立って親切にすることができるようにしたい。

4 本教材をもとに考える「弱さ」と「弱さを生む状況」

弱さ…親切にしたいという気持ちはあるが, 親切にしたことを周囲に認めてもらいたいという気持ち
弱さを生む状況…知らない相手, 自分には関係がない, わかってもらえない状況

5 弱さに焦点を当てた三つの活動について

	「表す」活動	「考える」活動	「向き合う」活動
目的	○登場人物のわたしを通して, 自分の親切に気付いてもらえない上に, 男の子の代わりに注意されてしまったものどかしい気持ちに気付く。	○自分の親切を誤解されてしまった状況の中でも, 私が「相手のことを思って行動できた清々しい気持ち」で弱さを乗り越えていることに気付く。	○今後様々な場面で親切に気付いてもらえない場面などを想起し, どんな心を大切にしたいか, 自分自身の弱さと向き合う。
弱さを扱う活動	・登場人物と同じような気持ちになる自分の気持ちを表出して視覚化する。	・周りが自分の親切に気付いてくれなくても, 相手のためを思って行動するために大切な心について考え共有化する。	・自分の損得ではなく, 相手のためになろうと行動していくために大切な心を考え自覚化する。

6 本時のねらい

主人公のわたしが親切にしたことに気付いてもらえず、代わりに怒られてしまったにもかかわらず、そのことをおばあさんに伝えなかった理由を考える活動を通して、相手のためを考えて親切にすることの素晴らしさに気づき、相手の立場に立って相手を思う気持ちから自分にできることをしようとする心情を育てる。

7 本時の指導

過程	学習活動、発問 及び 児童の反応	指導上の留意点
導入 ⑤	1 これまで親切にされた経験や親切にした経験について話し合い、本時の問題意識をもつ。 ○ 親切にした方が良いと思っているけど、親切にすることが迷うことはありませんか。 ・ 周りが知らない人ばかりだと不安になる。 ・ 見てないし、いいかなと思う。 見つめる心 迷わずに親切にするために大切な心は何だろう。	○ 親切にしようと思っても、相手や状況によって親切にするかどうか迷ってしまう気持ちに気付くことができるようにするために、アンケート結果を提示する。
展開 ③⑩	2 教材と自分の体験をもとに話し合い、親切の価値について明らかにする。 (1) 教材文の、知らない人に親切にしたのにもかかわらず、そのせいで代わりに注意されてしまった場面のわたしの気持ちを話し合う。【表す】 ○ おばあちゃんと男の子を心配してダンボール箱を代わりに片付けたのに、店員さんに注意されてしまったわたしはどんな気持ちだろう。 ・ 私じゃないのに、どうして怒られなきゃいけないの…。 ・ こんなことなら手伝わなければよかった。 ・ みんなに見られて恥ずかしい。 (2) 教材文の、おばあさんに怒られたことを伝えなかったわたしの気持ちを話し合う。【考える】 ◎ 男の子の代わりに怒られてしまったのに、そのことをおばあさんに伝えなかったのはどうしてだろう。 ・ 無事に男の子と合流出来ていて安心したから。 ・ お礼を言われて嬉しかったから。 ・ おばあさんに心配をかけたくないから。 相手の立場に立って、相手のためになれたらいいなと思う心が大切。	※弱さを視覚化する工夫 ○ 自分の親切をわかってもらえない状況に対する不満やモヤモヤとした気持ちに気付くことができるように、似ている考えごとに分類して板書する。 ※各自の考えを共有化する工夫 ○ 弱さを乗り越える工夫を考え価値を深く捉えさせるために、深める発問「<u>落としたのは男の子なのに店員さんに怒られて、しかも周りの人からもたくさん見られたのに、それをおばあさんに伝えずにすっきりできますか。</u>」を行う。
終末 ⑩	3 親切の価値を実現することのよさや難しさを振り返り、これからの自分について考える。【向き合う】 ①これから先、誰かのために行動する場面はありますか。 ②それらの場面で出てきそうな弱い心はありますか。 ③そのような状況でも相手のためを思って行動するために大切な心をまとめましょう。 ・ これからは、相手のことを思って行動できるようになりたい。周りから自分がどう思われるか心配になってしまうけど、親切にした相手が喜んでくれたり、安心したりする姿を想像して、相手のためを思う気持ちを大切にしたい。	※学びを自覚化する工夫 ○ 今後出会うであろう弱さが表れやすい場面を意識しこれからの自分を考えさせるために、子ども達が出会いそうな場面の写真を提示する。

第6学年I組 道徳科学習指導案

指導者 大野城市立大野小学校 石田 稔裕

1 主題名 相手を理解する心 「ぼくだって」(日本文教出版)

2 内容項目とその系統性

B 相互理解, 寛容

第3学年及び第4学年	自分の考えや意見を相手に伝えとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。
第5学年及び第6学年	自分の考えや意見を相手に伝えとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。
中学校	自分の考えや意見を相手に伝えとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。
高学年の段階においては、自分のものの見方や考え方についての認識が深まることから、相手のものの見方、考え方との違いをそれまで以上に意識するようになる。そのような時期だからこそ、相手の意見を素直に聞き、なぜそのような考え方をするのかを、相手の立場に立って考える態度を育てることが求められる。指導に当たっては、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することで、違いを生かしたよりよいものが生まれるといったよさや、相手の過ちなどに対しても、自分にも同様のことがあることとして謙虚な心、広い心で受け止め、適切に対処できるように指導することが大切である。(学習指導要領解説より)	

3 教材分析・児童の実態

教材について	児童について
本教材は、サッカーの大事な試合でミスをしてしまったヒサシに対して文句を言ったぼくが、同じチームのリュウタの言葉や自分の経験をきっかけに見方が変わり、ヒサシを責めたことを謝するという内容である。主人公のぼくが目の前の失敗のみを見ていたところからヒサシの内面に目を向けるようになるところに本主題の内容が含まれている。	本学級の児童は、わざとではない相手の失敗は許すことが大切であると考えて様々な場面で許すこともできている。しかし、自分に影響が大きい失敗に対しては許すことが難しいという実態がある。これは、自分に与える影響が大きければ大きいほど相手のことを考えられなくなるからだと考える。そこで、相手の失敗の理由やその時の思いを推し量ることができるようにしたい。

4 本教材をもとに考える「弱さ」と「弱さを生む状況」

弱さ…わざと失敗をしたわけでない相手を許そうと思うが、できない気持ち(不満や苛立ち)

弱さを生む状況…自分や全体への影響(損失)が大きい失敗、自分や周りが一生懸命に取り組んでいた状況

5 弱さに焦点を当てた三つの活動について

	「表す」活動	「考える」活動	「向き合う」活動
目的	○自分の損失が大きい失敗では不満や苛立ちが心の中で膨らんでしまうことに気付く。	○怒りでいっぱいだったぼくがヒサシに謝りに行った理由を考えると、自分に損失が大きい時こそ相手の立場に立つことが大切であることに気付く。	○自分や全体に損失が大きい失敗が起きた時にどんな心を大切にしていけるのか、自分自身の弱さと向き合った上で答えを見出す。
弱さを扱う活動	・アンケートをもとに自分の体験とつなげて考えさせ、登場人物の気持ちを心のメーターに表出して視覚化する。	・教師がヒサシ役の役割演技で深める発問「どうせぼくが悪いんだ。だから、あの日君はぼくを責めたんだろう？」を行い、ぼくが謝ることにした理由を共有化する。	・導入で用いた事前アンケートの結果を再度提示し、自分にとって損失が大きい失敗を選択させることで、本時の学びを自覚化する。

6 本時のねらい

主人公のぼくがヒサシの失敗を許せた理由を考えさせることを通して、失敗や過ちが自分に与える影響が大きい時こそ相手の立場に立ち、目に見えにくいその理由を考えたり相手の思いを推し量ったりすることが大切であることに気づき、失敗や過ちに広い心で接していこうとする態度を育てる。

7 本時の指導

過程	学習活動、発問 及び 児童の反応	指導上の留意点
導入 ⑤	1 わざとでない人の失敗を許すことについて話し合い、本時の問題意識をもつ。 ○ 人の失敗を許せた時と許せなかった時のちがいを生むものは何でしょう。 ・許せた時は、自分の心に余裕がある時。 ・許せなかった時は、自分にマイナスが多く出る時。 ——見つめる心—— 自分に関わりの大きい人の失敗に接する時に、大切な心を考えよう。	○ 問題意識をもたせるために、事前アンケートの結果(同じ体験であるのに許せた時の理由と許せなかった時の理由)について大型提示装置を使って紹介する。
展開 ③⑩	2 教材と自分の体験をもとに話し合い、相互理解、寛容の価値について明らかにする。 (1) ミスをしてしまったヒサシが控え室を飛び出した場面のぼくの気持ちを話し合う。【表す】 ○ ヒサシが控え室を飛び出した時のぼくは、どんな気持ちでしょう。 ・ミスして謝りもしない態度に腹が立つ。 ・全国大会に行くチャンスをなくして悔しい。 (2) あれだけ腹を立てていたのに、ヒサシの家へ謝りに行ったぼくの気づきについて役割演技をもとに話し合う。【考える】 ◎ あれだけ怒っていたぼくが、真っ先に着替えてヒサシの家に謝りに行くことにしたのはなぜだろう。 ・ぼくも同じ失敗をしてヒサシの辛い気持ちがわかった。 ・ヒサシの一生懸命さとミスの理由に気付けなくてごめん。 ・あの時はイライラした気持ちがいっぱいいて、ヒサシの思いを考えることが全然できなかった。 自分でいっぱいにならずに、相手の立場で考えることが大切。	※弱さを視覚化する工夫 ○ 自分の損失が大きい失敗に対しては不満や苛立ちが大きくなり、相手への思いやりをもてなくなることに気付かせるため、心情メーターを使って表した「許せる」と「許せない」の気持ちの理由を尋ねる。 ※各自の考えを共有化する工夫 ○ 弱さを乗り越える工夫を考えて、全体で価値を深く捉えさせるために、深める発問の「<u>どうせぼくが悪いんだ。だからあの日君はぼくを責めたんだろう。</u>」を行う。
終末 ⑩	3 相互理解、寛容の価値を表現するよさや難しさを振り返り、これからの自分について考える。【向き合う】 ①これから先、人の失敗がどんな場面で起こりそうですか。 ②それらの場面で出てきそうな弱い心はありますか。 ③そのような状況に対応するときに、大切にしたい心をまとめましょう。 ・私はこれからも、誰かが失敗した時にはすぐ責めるのではなく、できるだけ相手の立場を考えたい。なぜなら、失敗には何か理由があるかもしれないから。もしも自分にマイナスになるような失敗が起こったら、そんな時こそ落ち着いて相手の思いを考えたい。	※学びを自覚化する工夫 ○ 今後出会うであろう弱さが表れやすい場面を意識し、これからの自分を考えさせるために、導入で使った事前アンケートの結果を再提示する。

第6学年4組 道徳科学習指導案

指導者 大野城市立大野小学校 吉原 もな美

1 主題名 集団での役割 「二十五人でつないだ金メダル」(日本文教出版)

2 内容項目とその系統性

C よりよい学校生活, 集団生活の充実

第1学年及び第2学年	先生を敬愛し, 学校の人々に親しんで, 学級や学校の生活を楽しくすること。
第3学年及び第4学年	先生や学校の人々を敬愛し, みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。
第5学年及び第6学年	先生や学校の人々を敬愛し, みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに, 様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。
中学校	[よりよい学校生活, 集団生活の充実] 教師や学校の人々を敬愛し, 学級や学校の一員としての自覚をもち, 協力し合ってよりよい校風をつくるとともに, 様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。
高学年の段階においては, 児童が小学校の高学年としての自覚をもち, 学級や学校, 身近な集団を愛する心を具体化できるようになる。そのような時期だからこそ, 学校における学級集団, 異年齢集団だけでなく, 地域社会においても, 身近な集団において自分の立場やその集団の向上に資する自分の役割, 個人の力を合わせチームとして取り組んでこそ達成できることなどを自覚して, 様々な活動に積極的に参加できるようにしていくことが求められる。指導に当たっては, 様々な集団での活動を通して, 集団を支えているのは自分たち自身であることに気付かせると同様に, 集団における自分の役割を自覚し責任を果たそうとする態度を育てるように指導することが大切である。(学習指導要領解説より)	

3 教材分析・児童の実態

教材について	児童について
本教材は, 1998年の長野オリンピックで, 意に反してテストジャンパーになった西方さん達が, 選手たちの自分たちに対する思いに気付き, 悪天候の中, 次々ジャンプを決めて競技が続行され, 日本は悲願の金メダルをとるという内容である。主人公の西方さんが複雑な思いでテストジャンパーを引き受けたところからみんなの目標達成へと目を向けるようになるところに本主題の内容が含まれている。	本学級の児童は, 自分が与えられた役割を果たしたいと思っている。しかし, 人任せになったり, 自らの役割に意義を見出せなかったりする児童もいる。これは, 社会や集団の中には様々な役割があり, どの役割も大切であるということや, 自分の役割を果たすことが全体の目標につながることに気付いていないからだと考える。そこで, どんな役割にも必要とされる意味があり, みんなの目標とつながっていることに気付くことができるようにしたい。

4 本教材をもとに考える「弱さ」と「弱さを生む状況」

弱さ…自分の役割を果たしたい気持ちもあるが, 目立たない役割は手を抜いていいと思う気持ち 弱さを生む状況…面倒くさい, 目立たない, 褒めてもらえない, 望んでいた役割ではない状況

5 弱さに焦点を当てた三つの活動について

	「表す」活動	「考える」活動	「向き合う」活動
目的	○登場人物の西方さんを通して, 頑張ろうと思うが, 目立たない役割は手を抜いていいと思う気持ちもあることに気付く。	○「私の役割は必ず意味がある」, 「みんなと金メダルをとろう」という気持ちで弱さを乗り越えていることに気付く。	○自分の役割は手を抜いていいと思う気持ちをもった時にどんな心を大切にしていくなのか, 自分自身の弱さと向き合った上で自分の答えを出す。
弱さを扱う活動	・登場人物と同じような気持ちになる自分の気持ちを出して視覚化する。	・拍手や歓声がなくても役割を続けるために大切な心について考え, 共有化する。	・感謝されなかったり, 目立つ役割ではなかったりしても, 進んで役割を果たすために大切なことを考え, 自覚化する。

6 本時のねらい

主人公の西方さんの思いについて考えさせることを通して、どんな役割にも必要とされる意味があり、みんなの目標とつながっていることに気づき、自分の身近な集団の中での自分の役割を自覚し、進んで責任を果たそうとする心情を育てる。

7 本時の指導

過程	学習活動、発問 及び 児童の反応	指導上の留意点
導入 ⑤	1 自分から進んで役割を果たせた時と、果たせなかった時のことについて話し合い、本時の問題意識をもつ。 ○ いつも自分から進んで役割を果たしたいと思っていますか。 ・ 思っている。みんなが楽しく過ごせるから。 ・ 思っているが、進んでできないことがある。 見つめる心 いつも自分の役割を進んで果たすために大切な心を考えよう。	○ 問題意識をもたせるために、事前アンケートの結果(進んで役割を果たせた時と果たせなかった時の理由)について大型提示装置を使って紹介する。
展開 ③⑩	2 教材をもとに話し合い、自らの役割を果たすことの価値を明らかにする。 (1) テストジャンパーを引き受けた時の西方さんの気持ちを話し合う。【表す】 ○ テストジャンパーを引き受けた時の西方さんは、テストジャンパーの役割をどのように感じていたでしょう。 ・ なんて自分がテストジャンパーなんだ。 ・ 選手として、チームを支えたかった。 (2) 西方さんがテストジャンパーとしてジャンプすることを決めた理由について話し合う。【考える】 ◎ 命さえ危うい悪天候な上、賞賛もされない、そんな中、西方さんはなぜ飛ぶことを決めたのでしょうか。 ・ 自分が飛ばなければ金メダルはとれないから。 ・ 後悔したくないから。 どんな役割にも必要とされる意味があり、みんなの目標とつながっていると思う心。	※弱さを視覚化する工夫 ○ 自分にも、役割を果たしたい気持ちはあるが、手を抜いていいと思う心が生まれる時があることを理解させるために、事前アンケートをもとに委員会活動などの各自の体験を紹介する場を設ける。 ※各自の考えを共有化する工夫 ○ 弱さを乗り越える工夫を考え価値を深く捉えさせるために、深める発問「<u>選手としての銀メダルよりも、テストジャンパーとしての金メダルがずっしりと重く心に残るのは、なぜでしょうか。</u>」を行う。
終末 ⑩	3 よりよい学校生活、集団生活の充実の価値を実現することのよさや難しさを振り返り、これからの自分について考える。【向き合う】 ①これから先、目立たない役割を担う場面はありますか。 ②それらの場面で出てきそうな弱い心はありますか。 ③そのような状況でも進んで役割を果たすために大切な心をまとめましょう。 ・ 私はこれからも、係などで目立たない役割になった時も進んで取り組みたい。なぜなら、どんな役割も大切だと思うから。もしも、手を抜いてもいいかなと思った時には、みんなの目標につながることを意識して精一杯取り組みたい。	※学びを自覚化する工夫 ○ 今後出会うであろう弱さが表れやすい場面を意識し、これからの自分を考えさせるために、事前アンケートをもとに振り返る場を設ける。

開 会 行 事

◆あいさつ

◆主題説明

閉 会 行 事

◆あいさつ

主 題 說 明

(研 究 構 想)

研究主題「道徳的価値を自分事として捉える子どもを育てる道徳科学習指導」

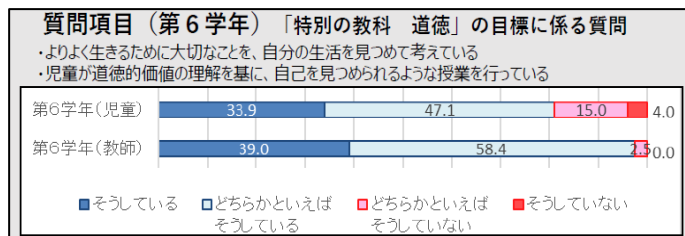
～「弱さ」に焦点を当てた三つの活動を通して～

Ⅰ 主題設定の理由

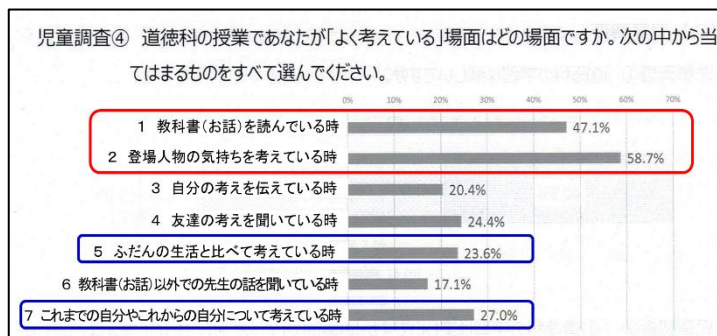
(1) 社会の要請から

令和4年度「小学校学習指導要領実施状況調査の結果について」(道徳科)-質問調査版-によると、「特別の教科 道徳」の目標に関する質問では、資料1のように児童の否定的な回答が約20%あり、教師の指導認識との受け止めの違いが10%以上ある。また、令和7年度に福岡県小学校道徳教育研究会が行った『「特別の教科 道徳」の授業改善にかかる実態調査報告書』によると、資料2のように、児童が道徳科でよく考えている場面は、教科書を読み、登場人物の気持ちを考える時の割合が高い一方、自分の普段の生活や過去・未来の自分を考える時の回答割合が低い傾向が明らかとなっている。

このような調査結果から、児童は道徳科の学習において自己の生き方についての考えを深めることに関しては継続した課題が見られる。そこで、道徳的価値を実現することの難しさ、素晴らしさを自分の生活とつなげて深く考え、道徳的価値に関わる自分らしさを大切にしようとする本主題を設定した。このことは、多様性の尊重や包摂性がより一層重視される社会を生きる児童にとって意義深い研究である。



資料1「小学校学習指導要領実施状況調査の結果について(道徳編)」



資料2「特別の教科 道徳」の授業改善にかかる実態調査報告書

(2) 学校の実態から

本校の教育目標は「社会力を身につけた自尊感情の高い子どもの育成」である。全国的な不登校児童の増加傾向に違わず、本校でも不登校発生率は全国平均の3.7%と大きくは変わらず高い傾向にある。また、教師目線では日々の学校生活では自信をもって生活しているように見えても、全国学力・学習状況調査児童質問紙の経年変化の結果から、自己有用感や自己効力感に関する項目において自分に自信がもてないと感じている児童も増加傾向にあった。さらに、道徳科の学習では、教師が期待する児童の発言が大きく取り上げられやすい傾向、学習活動が形式的になりやすい傾向がある。

このような現状を踏まえ、自分ができないことや苦手なことを安心して表出したり、他者のできないことや苦手なことの表出を受け入れたりする学習を重視する必要があると考えた。

そこで、自分の「弱さ」を素直に受け入れ、その「弱さ」を乗り越えようとする素晴らしさが自分の中に確かにあることの自覚を促し、自分らしく輝くことへの活力をもてる学習活動こそが大切だと考え、本主題を設定した。このことは、道徳科の学習をもとに、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握し、児童一人ひとりのよさを積極的に認め、励ますことが期待でき、本校の教育目標の実現にも大きく寄与するものであると考える。

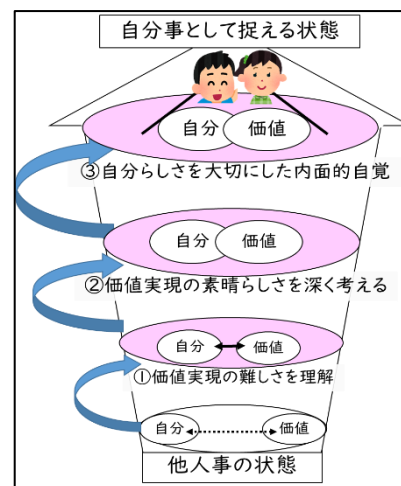
2 主題「道徳的価値を自分事として捉える子ども」について

(1) 「道徳的価値を自分事として捉える」とは

人間としてよりよく生きるために必要な礎となる道徳的価値を、自分の経験や日常の具体的な場面と結び付け、実現の難しさを理解しながらも、実現することの素晴らしさを深く考え、自分らしさを大切にした内面的自覚をすることである（資料3）。

自分事の反対は他人事である。毎週45分間の道徳科で取り扱う道徳的価値を単なる知識や理想として捉えている状態は、自分と道徳的価値とが離れた距離にある他人事の状態である。

そこで、道徳的価値を自分の生活や体験と結びつけて考えることで、まずは①価値実現の難しさが見えてくるため、自分と道徳的価値との正しい距離感が分かるようになる。次に、②その難しさを乗り越えて価値実現をすることの素晴らしさを深く考えることで、自分と道徳的価値が近付いてくる。最後に①と②を踏まえて③自分を客観的に見つめることで自分らしさを大切にした道徳的価値の自覚ができる。このように順序立てて高まっていく姿を、本研究では道徳的価値を自分事として捉える状態であると定義する。



資料3 道徳的価値を自分事として捉えるとは

(2) 「道徳的価値を自分事として捉える子ども」とは

具体的には、以下のような姿である。

- ① 道徳的価値を実現することの難しさを体験や場面とつなげて考えている子ども
- ② 道徳的価値を実現することの素晴らしさを多面的・多角的な視点から考えている子ども
- ③ 道徳的価値の実現に向けて自分らしさを意識した振り返りを行っている子ども

道徳科の学習においては、展開段階でまず教材文の登場人物や自分自身の気持ちについて考える。その際に①のように価値実現の難しさを考える。次に展開段階の山場において①の難しさを十分に踏まえた上で②のように価値実現の素晴らしさを考える。終末段階では、教材文から離れて自分自身のことを考える。その際に③のように価値実現に向けて自分らしさを意識して振り返りを行う。①から③には順序性があり、①の充実が②の充実につながり、①と②の充実が③の充実へとつながっていく。①～③の姿を児童の記述で具体的に表したものが資料4である。

規則
尊重の
振り返り
(例)



私はこれから、言葉になっていないルールを守る時にも自分中心にならないように気をつけたい。なぜなら、②ルールを守ることによってみんなの楽しさが守られるから。もしも、①図書室などでどうしても友達と話したくなった時には、③周りの人のことを意識したい。

親切
思いやり
振り返り
(例)



私はこれから、自分が立てた目標は、苦しくても最後まであきらめずにやりとげたい。なぜなら、②目標を達成できたらきっとうれしいし自分の自信になるからです。もしも、①あきらめそうになったら③自分がなぜそうなりたのか初めの気持ちを思い出します。

資料4 めざす子どもの具体的な姿（振り返りの記述例）

2 副主題「『弱さ』に焦点を当てた三つの活動」について

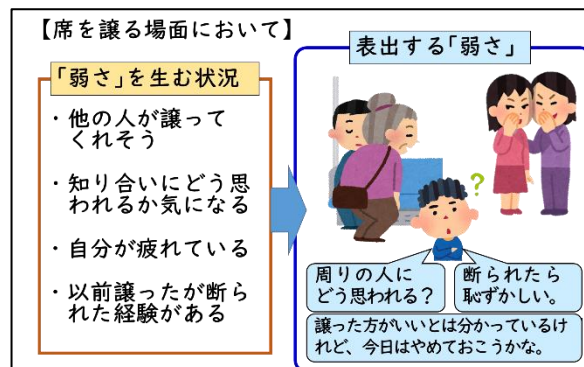
(1) 「弱さ」とは

「弱さ」とは道徳的価値が大切だと分かっている、その実現を妨げてしまう心のことである。具体的には、強欲さ、恥ずかしさ、不安、異なる道徳的価値などに起因する迷いや悩みである。

「弱さ」は教材中の登場人物はもちろん、人間ならば誰もがもっているものであり、否定するものではない。（例）…席を譲りたいけれど恥ずかしい、正直に言いたいけれど怒られるのが怖い、続けたいけれどきつい etc

また、誰もがもっている「弱さ」であるが、周囲の状況によって生まれやすいことも特徴である。

例えば電車の中で高齢者がきつそうに立っている場面に出合った時に、席を譲るという親切が大切だと分かっているでも「自分自身が運動をした帰りで、とても疲れている時」や「以前譲った時に相手から断られた経験」があると、今日は譲るのをやめておこうという心が表れやすい（資料5）。



資料5 弱さを生む状況と「弱さ」

弱さを生む状況には以下のようなものがあると考ええる。

「弱さを生む状況」…周囲の様子（みんながしている or していない、誰も見ていない等），人間関係（年齢や友人関係、相手はどう感じるか），自分にとっての損得，失敗の連続，他の価値 etc

(2) 「『弱さ』に焦点を当てる」とは

道徳的価値について考える際にその実現を妨げる迷いや葛藤、不安といった「弱さ」に着目し、その弱さを表出させて見えるようにしたり、その弱さを乗り越えるものは何かを考えたり、自分の日常生活の具体的な場面を想定してその弱さとしっかりと向き合わせたりすることで、弱さを克服する生き方の素晴らしさや自分らしい生き方を深く考えさせることである。

「弱さ」に焦点を当てることは、一見すると子ども達が自分のできないところはばかりに目を向ける「反省の道徳」になってしまうと思われるが、弱さに焦点を当てることで自分には弱いところもあるが、それを乗り越える強さ、または、乗り越えられる素晴らしさもあるということを自覚できる。つまり「弱さ」に焦点を当てることで子ども達は自分のよさを自覚できると考える。

(3) 「『弱さ』に焦点を当てた三つの活動」とは

具体的には、以下（資料6）のような活動が連続・発展していくことである。

	「表す」活動	「考える」活動	「向き合う」活動
段階	教材文を通した展開段階 前段	教材文を通した展開段階 前段	教材文から離れた展開段階 後段
目的	○登場人物や自分の気持ちを表すことで、 <u>自分がもっている弱さに気付く</u> ことができる。	○視覚化した弱さを乗り越えるものは何かを <u>考える</u> ことで、 <u>価値の意義をより深く捉える</u> ことができる。	○具体的な場面で自分の弱さと <u>向き合う</u> ことで、 <u>自分の答えを見出す</u> ことができる。
方法	・考えを言葉で整理したり表情図や心のメーターなどを使った表現活動を行ったりして、 <u>弱さを視覚化する</u> 。	・①で視覚化した弱さを活用した深める発問をペアや全体で話し合うことで、 <u>各自の考えを共有化する</u> 。	・場面提示や体験想起から、今後自分が出会うであろう弱さを意識し、本時の <u>学びを自覚化する</u> 。

資料6 「『弱さ』に焦点を当てた三つの活動」

この三つの活動は、シュプラランガーが著書「内面的自覚の過程」において提唱した『道徳的価値の内面的自覚の過程』に即している。表す活動で子どもが自分のもつ弱さに気づき、考える活動で教材文を通して子どもが価値の意義をより深く捉え、向き合う活動で自分なりの答えを見出すという流れはシュプラランガーが述べる「自己内省」「他者理解」「自己超越」のプロセスを経ることである。つまり、これらの三つの活動を行うことは価値の自覚を行うことと同意であり、主題の道徳的価値を自分事として捉える上でも意義深いと考える。

4 研究の目標

道徳科の学習において、道徳的価値を自分事として捉える子どもを育てるために、「弱さ」に焦点を当てた三つの活動を行うことの有効性を明らかにする。

5 研究の仮説

「弱さ」に焦点を当てた三つの活動において以下の2点に着眼した指導を行えば、道徳的価値を自分事として捉える子どもを育成できるであろう。

- (1) 弱さに焦点を当てるための発問の工夫について
- (2) 弱さに焦点を当てるための表現活動の工夫について

6 研究の具体的構想

(1) 表す活動について

①弱さに焦点を当てるための発問の工夫について

表す活動では登場人物や自分の気持ちを表現することで、自分のもっている弱さを表出・視覚化する。展開前段において行う「表す活動」の発問の工夫は資料7の通りである。

	登場人物の気持ちを表す発問	自分自身の気持ちを表す発問
基本発問	(例) ・□□の時、登場人物はどんな気持ちですか？ ・なぜ、登場人物は〇〇したのでしょうか？	(例) ・□□の時、あなたならばどうしますか？ ・□□の時、あなたならばAしますか？それともBしますか？ また、その理由は？
補助発問	 自分をもつ弱さを表出したり視覚化したりする発問	
	(例) ・(よい行動を志向する) 気持ちだけかな？ ・なぜ正しくないかわかっていて、〇〇したの？ ・なぜ悲しい顔なの？(表情図に注目して)	(例) ・なぜ(よい行動)をすることができないの？ ・同じ気持ちになったことはある？どんな時？ ・Aと言いながら、Bの気持ちもあるのはなぜ？

資料7 「表す」活動における基本発問と補助発問について

②弱さに焦点を当てるための表現活動の工夫について

上記の発問を行う際に、具体的に以下のような表現活動を行うことで、自分もっている弱さを表出・視覚化しやすくなると考える。

	低学年	中学年	高学年
表現活動具体例	「でも&どうしてパッケージ」 →教師とのやりとりで、登場人物の葛藤を表出する。 他「表情図」「ハート図」等	「心のメーター」 →価値を実現したい気持ちと妨げる気持ちを数値化する。 他「ネームカード」等	「体験とつなぐ」 →登場人物の弱さと同じ気持ちがわかるか？似た体験あるか？ 他「心のメーター」等

資料8 「表す」活動における表現活動の例

また、各自の考えを全体が共有できるようにICTの活用も効果的である。

(2) 考える活動について

①弱さに焦点を当てるための発問の工夫について

ここでは、「表す活動」で視覚化された自分もつ弱さを乗り越えるために大切なものについて、みんなで話し合って深まった考えを共有化する。展開前段で行う「考える活動」の発問と表現活動は以下の通りである。

○ 中心発問・基本発問について

まず、子ども達が導入段階でもった問題意識を解決するために中心発問を考える。必要に応じて基本発問を組み合わせるが、45分間の授業の中で三つの活動を行うことから、「考える活動」での発問は基本発問1つ、中心発問1つ、補助発問1つ以内を目安に精選する。その際、中心発問を検討するポイントは、「本時のねらいに迫ることができるかどうか」であり、その中心発問が充実するように基本発問と深める発問を検討する。

○ 深める発問について

考える活動では、中心発問に加えて深める発問を行うことで、弱さを乗り越えるものについて深く考える場面をつくる。この際に表す活動で視覚化した「弱さ」を活用することで、子ども達の考えを表面的なものから、より深いものにできると考える。基本的には、中心発問を行った後に補助発問を行い、教材やねらいに応じて使い分ける。また、深める発問を行う際には場面設定を行うことも有効である。

活動	発問の内容
表す活動	・○○はどんな気持ちだろう？ ・○○が～しているのはなぜ？
考える段階	【基本発問】
	【中心発問】
	【深める発問】 ※「弱さ」をしっかりと見つめさせる

視覚化した「弱さ」

※中心発問と補助発問の順番は問わない

※教材文にない場面設定も有効

資料9 深める発問について

※以下 具体例（発達段階に応じて、登場人物に共感したり、登場人物から離れたたりして行う）

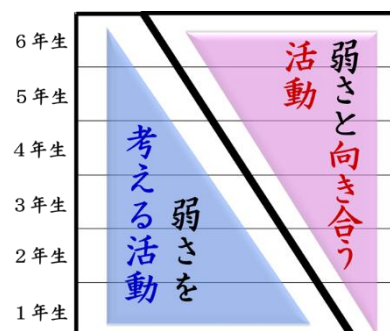
下学年	○「～（望ましい行為）したら…（気づく段階で出た弱さ）するかもしれないよ。 それでも～（望ましい行為）するの？ それはなぜ？」 ○「もしも【場面設定】したとしても、～（望ましい行為）ができる？」
上学年	○「あなたが～（表す活動で出た弱さ）したとしても…（中心発問で出た望ましい行為）しますか？」 「さっき～（表す活動で出た弱さ）と言っていたよね。本当に（望ましい行為）できる？」 ○「もしも【場面設定】したら、（「弱さ」）の気持ちが大きくなってしまうよね。 それでも～（望ましい行為）ができる？」
【場面設定の具体例】 ・周りの登場人物が、よくない行為に流れるような声かけをしてきたとしたら… ・教材文ではよい行為を褒めてくれた登場人物が、もしも褒めてくれないとしたら… ・周囲に教材文ではない特徴をもった登場人物がいたら… ・周囲の環境がよい行為を行いづらい環境だったとしたら… など	

②弱さに焦点を当てるための表現活動の工夫について

交流については、「動作的表現活動」、「視覚的表現活動」、「言語的表現活動」をそれぞれの発達段階に応じて活用（資料10）することで、より効果的に他者と考えを交流できると考える。また、「弱さを考える活動」と「弱さと向き合う活動」にかかる時間については、資料11のように発達段階に合わせて軽重をつけて扱うものとする。

低学年	中学年	高学年
低 役割演技 動作化 心情図 ネームカード 思考ツール 中 高	低 役割演技 動作化 心情図 ネームカード 思考ツール 中 高	低 役割演技 動作化 思考 ツール その他 心情 ネームカード 中 高
※ 役割演技を即興的に演じさせることで、新しい価値を発見させられる。	※ 心情図やネームカードで立場の違いを可視化し、議論につなげる。	※ 思考ツールで多様な考えに触れることで考えを広げたり深めたりできる。

資料10 発達段階に合わせた表現活動について



資料11 活動にかかる時間の軽重

(3) 向き合う活動について

①弱さに焦点を当てるための発問の工夫について

ここでは、「考える活動」で見出した大切にしたい心について各自が具体的な場面を想定して考えることで、自分がもつ弱さと向き合う。向き合う活動の基本的な流れと発問と表現活動については以下の通りである。

○ 向き合う活動の基本的な手順

ここでは、登場人物から離れて本時学んだ価値について提示された場面を考えたり、自分の体験を想起したりすることで、具体的な場面を思い浮かべて弱さと向き合わせる。

① 学んだ価値に関連する場面提示+自分の体験の想起→②考えられる弱さの想定→③自分の考えを整理

	①場面提示+体験の想起	②考えられる「弱さ」の想定	③自分の考えを整理
発問 (例)	・「今日の学習で学んだように、(価値)についてできたことはありませんか？」 ※子どもから出ない場合は教師が提示。	・「少しなら話してもいいかな？」とか思わない？ ・「何度も上手くいかないをやめたくない？」 ・「このような場面で出てきそうな弱い心は？」	

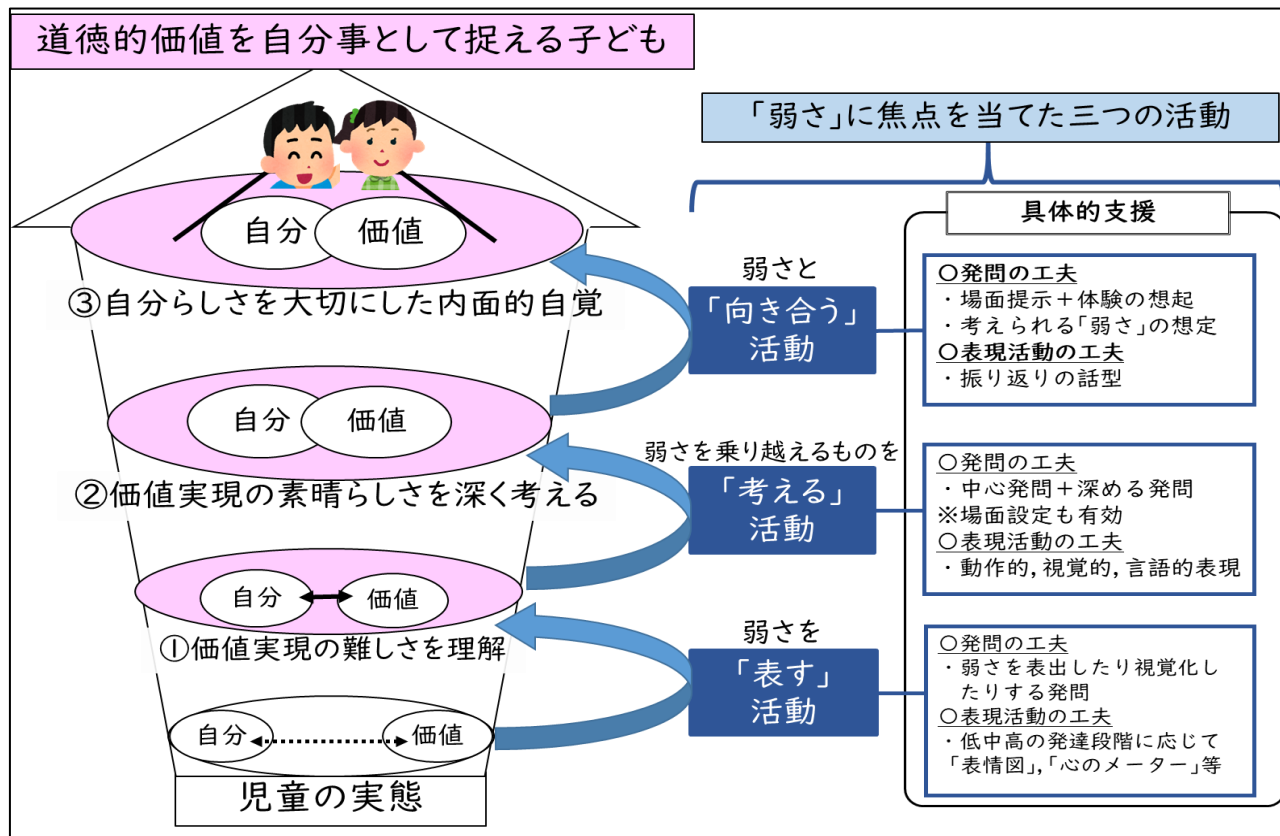
② 弱さに焦点を当てるための表現活動の工夫について

自分の考えを整理する時には、子ども達一人一人が今日の学習を振り返り、自分の言葉で本時について振り返る。また、その際に表面上の分かりきったことや望ましいことを記述することがないように、本時に表出した人間の弱さについてしっかりと想起し、「もしも～のような思いが出てきたら、…としたい」というところまでを考えて振り返らせたい。これが、道徳的価値を自分事として捉え、学んだことがこれからの実践場面で生きて働くことにつながると考える。(右は振り返りの例であるが、発達段階により記述方法は異なる)

振り返りについて【向き合う段階】	
振り返りの話型例	道徳的価値を自分事として捉える子どもの姿
今日の学習でわかったこと わかったことは、周りのことを考えてルールを守ることです。	実現につながる自分なりの答え
その理由 なぜなら、マナーを守ることとみんなの楽しさが守られるからです。	実現することの素晴らしさ (その価値を実現するとどんなよいことがあるか)
もしも弱さが出てきたら もしも、図書室などで友達と話したくなったら周りの人の気持ちを考えたい。	実現することの難しさ (弱さと向き合って)

資料 12 振り返りについて(話型と主題の姿)

7 研究構想図



分 科 会

(14:55～15:30)

	低学年	中学年	高学年
会場	3 年 1 組	5 年 1 組	体育館
司会者	古賀 翔太	鬼丸 祐典	鶴 友里恵
授業者	平松 海里 泉 京子 蛸原 登美子 高山 福	飯田 莉羅 友田 梨央 櫻井 力靖 山形 克二 川浪 信子	豊世 菜々子 前田 晏佳 石田 稔裕 吉原 もな美
指導助言	福岡教育事務所 指導主事 宇戸 勝則 先生	筑紫野市立山口小学校 教頭 富松 浩規 先生	那珂川市立安德小学校 校長 陶山 嘉一 先生

- (1) 授業説明
- (2) 質疑・応答
- (3) 意見・感想
- (4) 指導助言

【低学年 分科会】

指導助言 福岡教育事務所 指導主事 宇戸 勝則 先生

学年	内容項目	教材名	授業者
1年	B 友情, 信頼	二わのことり	平松 海里
1年	A 節度, 節制	休みじかん	泉 京子
2年	B 親切, 思いやり	くりのみ	蛸原 登美子
2年	C 規則の尊重	一りん車	高山 福

【中学年 分科会】

指導助言 筑紫野市立山口小学校 教頭 富松 浩規 先生

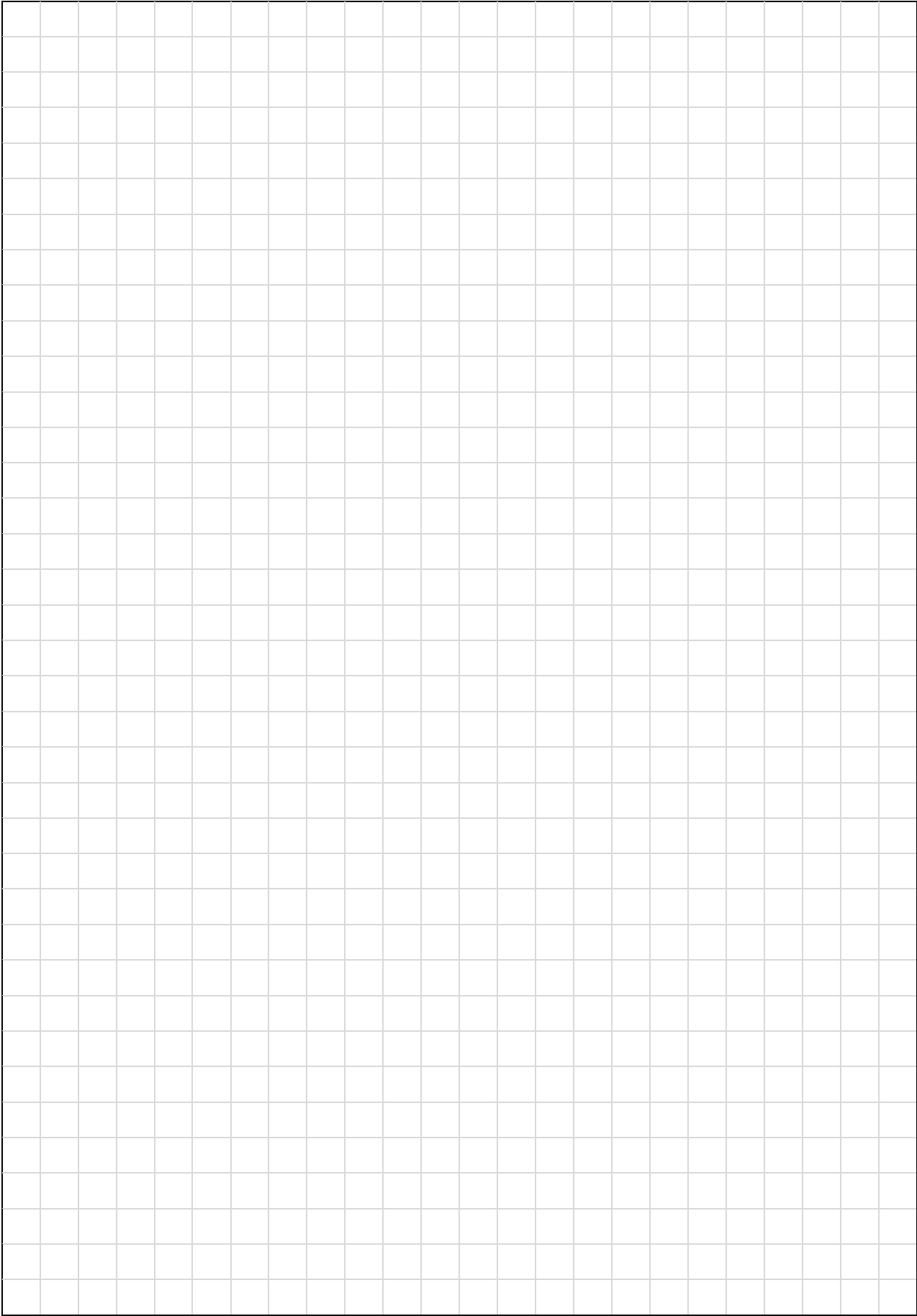
学年	内容項目	教材名	授業者
3年	A 節度，節制	どんどん橋のできごと	飯田 莉羅
3年	A 正直，誠実	まどガラスと魚	友田 梨央
4年	B 友情，信頼	絵はがきと切手	櫻井 力靖
4年	A 正直，誠実	新次のしょうぎ	山形 克二
4年	A 善悪の判断，自律，自由と責任	遠足の朝	川浪 信子

【高学年 分科会】

指導助言 那珂川市立安徳小学校 校長 陶山 嘉一 先生

学年	内容項目	教材名	授業者
5年	B 相互理解, 寛容	折れたタワー	豊世 菜々子
5年	B 親切, 思いやり	くずれ落ちただんボール箱	前田 晏佳
6年	B 相互理解, 寛容	ぼくだって	石田 稔裕
6年	C よりよい学校生活, 集団生活の充実	二十五人でつないだ金メダル	吉原 もな美

—メ モー



講演

講演

講師紹介

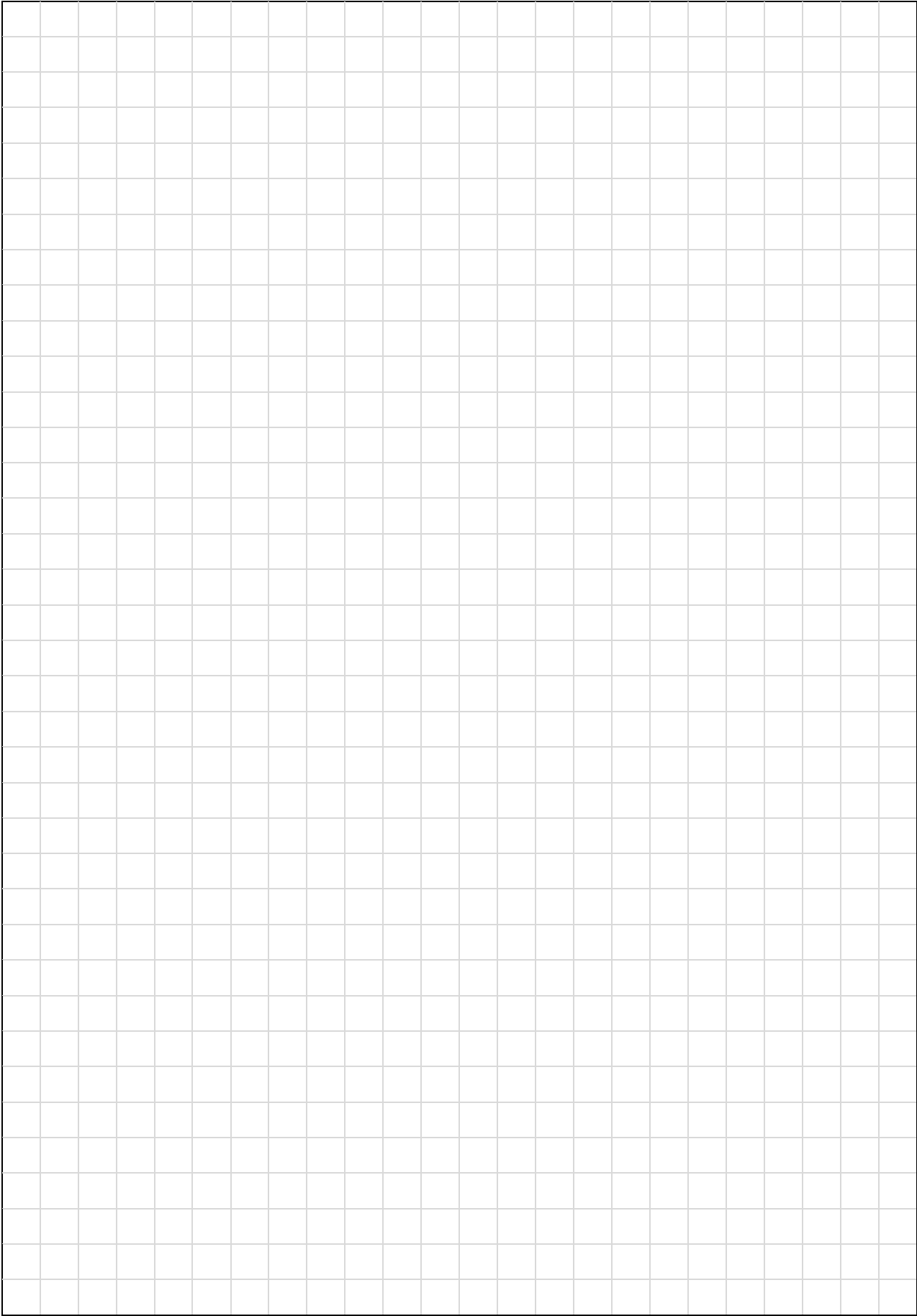


大野小学校 4 年 2 組児童との公開授業
主題名「何事もほどほどに」A 節度，節制
教材名『金色の魚』



十文字学園女子大学
教育人文学部児童教育学科
教授 浅見 哲也 様
(前文部科学省教科調査官)

1967 年埼玉県生まれ。1990 年より埼玉県内の教諭，指導主事，教頭，校長，園長を務め，2017 年より文部科学省教科調査官，2023 年 4 月より十文字学園女子大学教授。
どの立場でも道德の授業をやり続け，今なお子供との対話を楽しむ道德授業を追求中。
大野城市立大野小学校でも今年度 7 月 1 日に道德授業をしていただきました。



研 究 同 人

令和5年度					
校長	梶 幸男	5年1組	松田慶次郎	担任外	藤 隆興
教頭	大隈 和彦	5年2組	高熊 早織	初任者後補充	内田 結花
教頭	吉田 幸子	5年3組	目野ともか	養護教諭	西岡 裕美
主幹教諭	前田 真秀	5年4組	橘木 美紀	養護教諭	小川 優
初任者指導	吉武 史恵	5年5組	鬼丸 祐典	栄養教諭	安川 幸余
1年1組	庫本 佳奈	6年1組	石田 稔裕	企画主査	久光 唯史
1年2組	門 由紀子	6年2組	吉原もな美	主事	長野 花鈴
1年3組	篠崎 右一	6年3組	吉田 恵	事務補	廣田 知子
1年4組	原口 麻美	6年4組	村上 舞	学校司書	古賀 弥生
1年5組	諸永 知美	6年5組	國増 友彦	校務員	荒巻 守之
2年1組	川口美津子	ひまわり1組	松永 理己	校務員	田野 康行
2年2組	平松 海里	ひまわり2組	中上 星風	スクールサポートスタッフ	草野世津子
2年3組	中山 美香	ひまわり3組	櫻井 力靖	学力向上	山口 薫
2年4組	豊世菜々子	ひまわり4組	小林 一太	学級サポ-ト	石井 義人
2年5組	古賀 翔太	ひまわり5組	今井 志保	学級サポ-ト	尾崎 純子
3年1組	鶴 友里恵	ひまわり6組	田中 陽子	学級サポ-ト	米湊 直俊
3年2組	向谷はるか	ひまわり7組	高崎 朋子	介助員	暁 知子
3年3組	山形 克二	ひまわり8組	綿貫真佐子	介助員	貝田 恵
3年4組	友田 梨央	ひまわり9組	上之蘭美幸	介助員	北川 理恵
3年5組	山本 恵祐	理科専科	衛本 幸恵	介助員	谷川 かおり
4年1組	井口 玲	英語専科	太郎良美幸	ALT	Alboiu Ion
4年2組	牛原 千絵	担任外	泉 京子	育休	粕谷 朋美
4年3組	河野 美穂	担任外	清水 萌花	育休	大木 美咲
4年4組	前田 晏佳	担任外	平野 孝二		
4年5組	福岡麻依子	担任外	白井 文夫		

令和6年度					
校長	梶 幸男	5年3組	福岡麻依子	養護教諭	西岡 裕美
教頭	吉田 幸子	5年4組	山形 克二	養護教諭	小川 優
教頭	岡本 貢昭	6年1組	松田慶次郎	栄養教諭	坂西 佳子
主幹教諭	前田 真秀	6年2組	山本 恵祐	企画主査	久光 唯史
1年1組	吉原もな美	6年3組	前田 晏佳	主事	長野 花鈴
1年2組	泉 京子	6年4組	吉田 恵	初任者後補充	内田 結花
1年3組	牛原 千絵	6年5組	目野ともか	初任者後補充	石松 桂子
1年4組	中山 美香	ひまわり1組	清水 萌花	事務補	廣田 知子
1年5組	古賀 翔太	ひまわり2組	高崎 朋子	学校司書	古賀 弥生
2年1組	川口美津子	ひまわり3組	今井 志保	学力向上	山口 薫
2年2組	高山 福	ひまわり4組	大木 美咲	学級サポ-ト	石井 義人
2年3組	友田 梨央	ひまわり5組	井口 玲	学級サポ-ト	米湊 直俊
2年4組	原口 麻美	ひまわり6組	上之蘭美幸	学級サポ-ト	七田 国明
2年5組	篠崎 右一	ひまわり7組	松永 理己	校務員	荒巻 守之
3年1組	衛本 幸恵	ひまわり8組	綿貫真佐子	校務員	田野 康行
3年2組	豊世菜々子	ひまわり9組	小林 一太	スクールサポートスタッフ	草野世津子
3年3組	向谷はるか	担任外	平野 孝二	支援員	暁 知子
3年4組	鬼丸 祐典	担任外	田中 陽子	支援員	貝田 恵
3年5組	大山 梨乃	担任外	白井 文夫	支援員	北川 理恵
4年1組	鶴 友里恵	担任外	藤 隆興	支援員	横山 美幸
4年2組	小野寺 駿	担任外	尾崎 純子	ALT	Christian Mario Matar
4年3組	平松 海里	担任外	村上 美空	育休	粕谷 朋美
4年4組	國増 友彦	担任外	戸出 真美	育休	河野 美穂
4年5組	中上 星風	担任外	矢野さおり	育休	橘木 美紀
5年1組	石田 稔裕	英語専科	太郎良美幸	育休	諸永 知美
5年2組	村上 舞				

研 究 同 人

令和7年度					
校長	梶 幸男	5年5組	前田 晏佳	主幹	久光 唯史
教頭	岡本 貢昭	6年1組	石田 稔裕	主任主事	長野 花鈴
教頭	磯田 哲郎	6年2組	野中夢実子	事務補	廣田 知子
主幹教諭	前田 真秀	6年3組	吉田 恵	学校司書	古賀 弥生
1年1組	川口美津子	6年4組	吉原もな美	学力向上	山口 薫
1年2組	天野美奈子	6年5組	江頭 圭子	学級サポート	石井 義人
1年3組	原口 麻美	ひまわり1組	衛本 幸恵	学級サポート	米湊 直俊
1年4組	平松 海里	ひまわり2組	福岡麻依子	学級サポート	田村 尚美
1年5組	泉 京子	ひまわり3組	鍵水 薫	校務員	田野 康行
2年1組	蛭原登美子	ひまわり4組	高崎 朋子	校務員	竹下 直
2年2組	高山 福	ひまわり5組	児玉 紗彩	スクールサポートスタッフ	草野世津子
2年3組	小林 一太	ひまわり6組	今井 志保	SSW	柿本亜優星
2年4組	古賀 翔太	ひまわり7組	上之園美幸	支援員	暁 知子
2年5組	矢野さおり	ひまわり8組	松永 理己	支援員	横山 美幸
3年1組	國増 友彦	ひまわり9組	綿貫真佐子	支援員	野中 麻美
3年2組	西本 愛	ひまわり10組	諸永 知美	支援員	高倉 智春
3年3組	鬼丸 祐典	英語専科	太郎良美幸	支援員	北村 有貴
3年4組	飯田 莉羅	担任外	平野 孝二	支援員	後藤 公子
3年5組	友田 梨央	担任外	尾崎 純子	支援員	東 桂子
4年1組	目野ともか	担任外	藤 隆興	支援員	川崎 英子
4年2組	福元 隆史	担任外	松尾 禎子	支援員	野田 貴子
4年3組	櫻井 力靖	担任外	山本 恵祐	看護師	正木いづみ
4年4組	山形 克二	担任外	江頭 尚己	ALT	Christian Mario Matar
4年5組	川浪 信子	担任外	高山 麗子	育休	河野 美穂
4年6組	向谷はるか	初任者後補充	内田 結花	育休	中上 星風
5年1組	鶴 友里恵	初任者後補充	堤 薫	育休	大木 美咲
5年2組	小代 治輝	養護教諭	小川 優	育休	村上 舞
5年3組	豊世菜々子	養護教諭	上田 順子	育休	橘木 美紀
5年4組	小野寺 駿	栄養教諭	坂西 佳子		

講 師 一 覧

令和5年度		
筑紫野市立山口小学校	校 長	税田 雄二 先生

令和6年度		
十文字学園女子大学	教 授	浅見 哲也 先生

令和7年度		
十文字学園女子大学	教 授	浅見 哲也 先生
福岡教育事務所	指導主事	宇戸 勝則 先生
那珂川市立安德小学校	校 長	陶山 嘉一 先生
筑紫野市立山口小学校	教 頭	富松 浩規 先生

おわりに

「弱さ」に向き合うことは、「自分のよさ」への気づきを促す

「自分にはよいところがありますか」

この質問項目は、毎年実施されている、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の質問項目であり、学びに向かう力・人間性等に係る「自己有用感・自己効力感」の内容です。

本校は「社会力を身につけた、自尊感情の高い子どもの育成」を教育目標に掲げ、これまでも道德教育の充実に取り組んできました。特に、令和5・6・7年度の3年間は、本指定・委嘱を受け、人間の持つ「弱さ」に光を当てた道德科の研究を進めて参りました。

この間の研究の歩みと冒頭の質問項目の回答状況を重ねてみますと、以下のようになります。

「自分にはよいところがありますか」(当てはまる、どちらかと言えば当てはまる)

令和5年度	令和6年度	令和7年度
84.8% (※県平均82.3%)	93.7% (※県平均83.3%)	95.9% (※県平均86.4%)

令和5年度から令和7年度までを比較してみますと、本校の学校教育の成果として、11.1%の向上が見られました。「弱さに光を当てた本研究の実践」と「自己有用感・自己効力感の回答状況の変容」を安直に結びつけるわけにはいきませんが、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編において、「弱さ」の文言が最も多く登場する70ページの記載内容に本結果を読み解くヒントがあるように思います。

人間は本来、よりよく生きようとする存在であり、そのために人間性をより高めようと努めるすばらしさをもっている。一方で、人間は決して完全なものではない。誰しもが誘惑に負けたり、やすきに流されたりするといった弱さももち合わせている。このようなすばらしさや弱さは決して別々に存在するものではなく同時に内在しているものである。しかし、人間は決して内在する弱さをそのままにしておく存在ではなく、弱さを羞恥として受け止め、それを乗り越え誇りを感じることを通して、生きることへの喜びを感じる。

人間はよりよく生きようとする存在であり、内在する弱さに向き合う時、その弱さを起点に内面的な成長の芽が生まれるのではないかと考えています。

- ・自分の弱さに向き合うことで、自分の感情や行動の背景にある理由を見つめ直す姿。
- ・自分の弱さを認めることで、他者の弱さにも寛容になり、共感や思いやりの心をもつ姿。
- ・自分の弱さを隠さず、受け入れる経験を重ねることで、「そのままの自分」でいいという感覚をもつ姿。

このような姿からは、弱さに向き合うことが、自己理解を深め、他者との関係性を豊かにし、ありのままの自分を肯定するプロセスとなり、「自分のよさ」への気づきを促したことが推察できます。

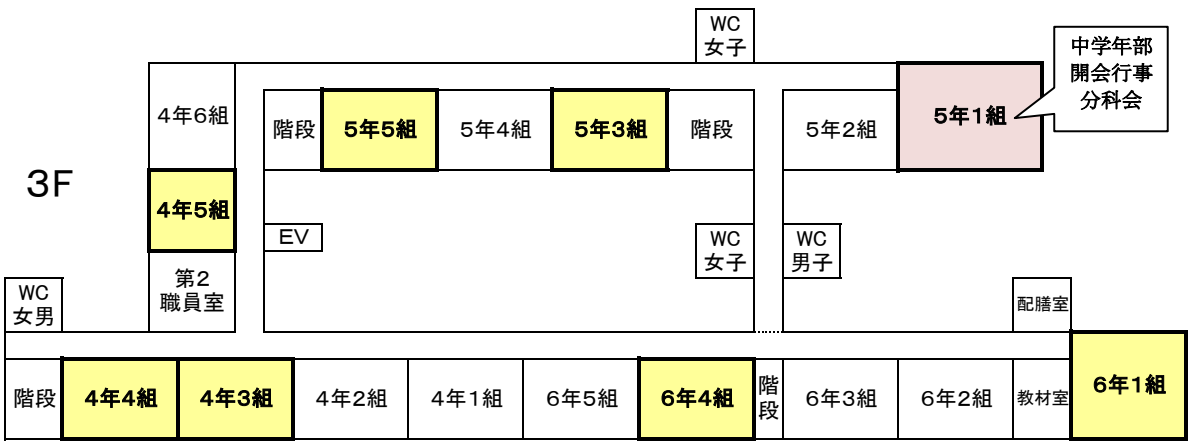
本校では、自らの将来像を肯定的に思い描き、自分らしく進路実現・自己実現に向かうことができる子どもを育て、送り出すことを学校の使命と考えており、本研究を通じて、自分のよさを感じられる道德教育や道德科の重要性を改めて感じました。本研究の成果や課題を御指摘いただくことで、多くの学校の道德教育の充実や道德科の授業改善につながれば、これに勝る喜びはありません。

御参会いただきました皆様、研究を支えていただきましたすべての皆様に深く心から感謝申し上げます。

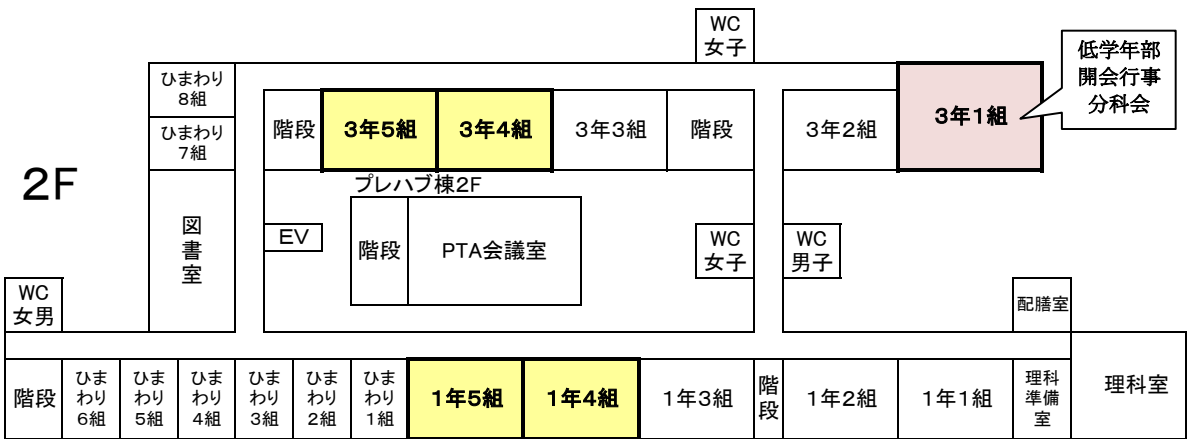
子どもたちの未来が、弱さを抱えながらも、強く、優しく、しなやかに輝くことを願って。

令和7年10月1日
大野城市立大野小学校
教頭 磯田 哲郎

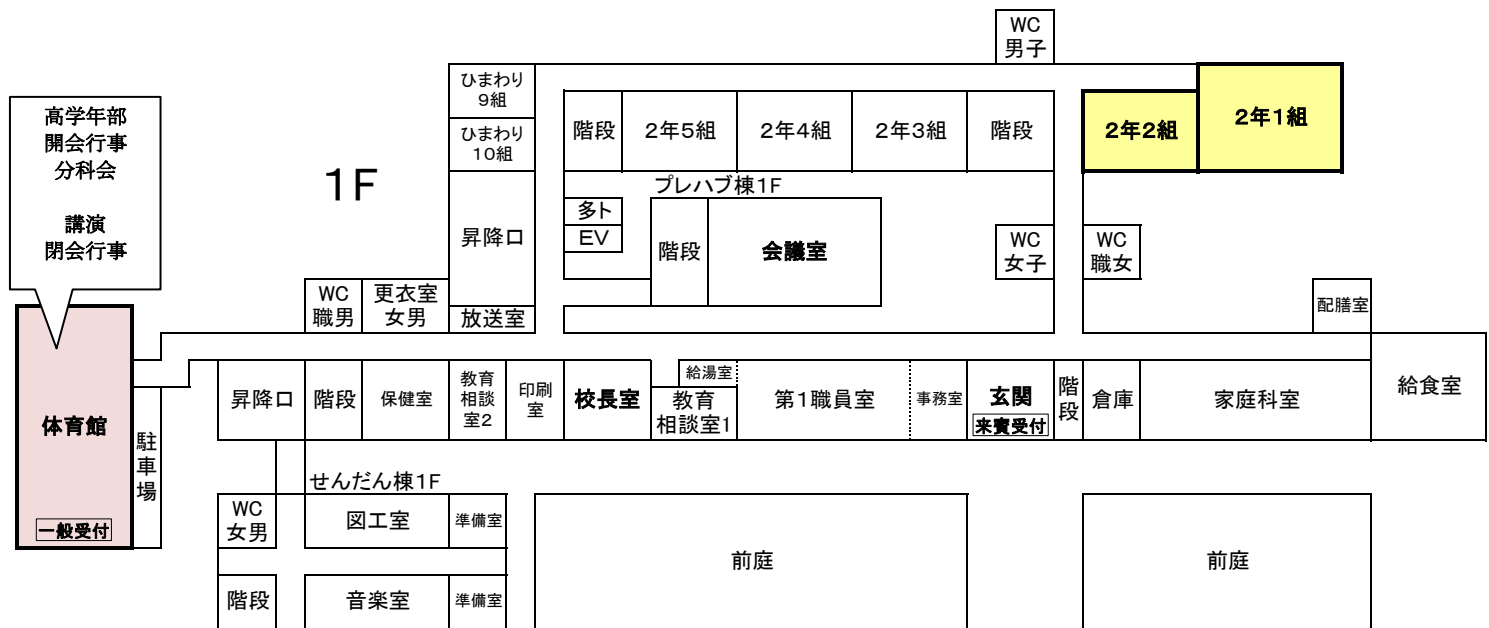
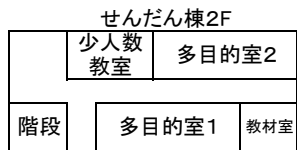
令和7年度
大野城市立大野小学校
校舎配置図



中学年部
開会行事
分科会



低学年部
開会行事
分科会



正門

